

金光学園

やっなみ

2023.3



264号



卒業式



高2 芸術選択者発表会



この学校で学んだこと

岡田 祥平

「一隅を照らす」

これは私が生きていく中で、大切にしている教えの1つです。

その昔、天台宗の開祖である最澄にて書かれた書物の中の一文であり、家庭や職場など、自分自身が置かれたその場所で、精一杯努力し、明るく光り輝くことのできる人こそ、何物にも変えがたく、一人ひとりがそれぞれの持ち場で全力を尽くすことによって、社会全体が明るく照らされていくという内容です。

それにより、自分のためばかりではなく、人の幸せ、人類みんなの幸せを求めていこうという、これは金光学園の「人をたいせつに自分をたいせつに物をたいせつに」という教えに通ずるところがあるように感じます。

自身の子をこの学校に入学させて本当によかったと思うのが、学生にとって勉強が大事なのは当然ですが、それ以前にこのような人生を豊かに生きていく上で大切な価値観を、学校生活を通じて触れ合う機会を得たことです。

これから卒業を迎え、近い将来社会に飛び出す皆様にとって、これからの世の中は今以上に厳しく、予想もつかない事態が起こることが予想されます。ですが、それら変化する環境にあっても、この学校で学んだことをよく思い出し、少しでも周囲に気を配り、思いやりを持てる大人に成長していただき、心豊かな人生を歩んでいただけることを願っております。

(金光学園やつなみ保護者会副会長)

目次

巻頭言	1
第75回高校卒業式	2
道(34)	29
活躍おめでとう	34
活躍する卒業生	36
やつなみ保護者会のページ	39
会報	42
学園随想(81)	43
中3東京研修旅行	46
ある日のホームルーム	54
国際交流 復活します！	56
生徒会活動	62
学園だより	66
教室の窓から	68
編集後記	

第75回高校卒業式

式辞

校長 金光 道晴



立春を過ぎた頃からは、寒さも緩む日が多くなり、日に日に春の訪れを感じるようになってきました。今日は四月並みの温かさになるとのこと、このように早春の穏やかなお日和の中で、麗しく第75回高等学校の卒業式を迎えさせて頂きました。皆様誠におめでとうございます。

山浅口市長様と岩崎金光教務総長様のお二人には、ご来賓の代表として、ご臨席していただいております。お忙しい中、誠にありがとうございます。

私は保護者の方々はもちろん、在校生やご来賓の方々と全教職員がそろって共に心を込めて卒業生を送ることをずっと願っておりますので、このように盛大かつ厳粛に卒業式が挙行できることは誠に嬉しく有り難く感慨もひとしおであります。

はじめに保護者の皆様にお祝いと御礼を申し上げます。本日は誠におめでとうございます。18年前に、ご両親の大きな感動の中で、産声をあげたお子様はこのように立派に成長されました。あどけない新入生として入学した6年前も、初々しい新入生として高校へ入学してこれらた3年前も、過ぎ去ってみればついこの前のような気がいたします。

保護者の皆様には、こうしてお子様が無事学園生活を終えて、今日の良き日を迎えられたことを感無量の思いで、出席しておられることと存じます。改めまして入学以来、学園教育の全てにわたります、今日までいただいております。

本日の卒業式は実に四年振りに、高1・高2の在校生も出席しての卒業式となりました。と申しますのも、御承知のように、この度の卒業生が中学3年生の3学期から新型コロナウイルスの感染が始まり、当時県教委からは卒業式には在校生は出席せず、来賓の方々もお招きせずに行うようにとの通達が行立学校に出され本校としてもそのようにさせていただきましたが、それから3年、コロナ感染拡大の中で、続く一昨年も、昨年も卒業生と保護者と教職員だけで卒業式を挙行することになりました。

したがって、今日の卒業生の皆さんは高1の時も高2の時も在校生として、卒業式には出席することなく、自分たちが送られる立場になって初めての卒業式となったのであります。そしてその間は来賓の方の出席をお願いすることは控えさせて頂いてまいりましたが、本日は栗

温かいご理解と格別のご協力に御礼を申し上げますとともに、心からお祝いを申し上げます。

さて、185名の卒業生の皆さん、本日は卒業おめでとうございます。今朝は卒業式に先立ち、金光教本部に参拝し、この場に臨んでおります。金光教本部会堂の中に入って、全員そろっての参拝は高校入学以来、はじめてのことでありましたが、同時に今日の参拝が高校生としての最後の参拝となりました。

藤井一鷹君が代表して、ここまで成長させていただいたことの御礼と、ここからお願いの届けをされ、教主金光様から「われわれは、生活のすべての上で、あらゆる人やもののお世話になっていきます。お世話になるすべてに礼を言う、感謝の心を土台にして、ここから先、それぞれの願いに沿っておかけを頂かれますよう、お祈りいたします。本日はおめでとうございます。」とお言葉をいただきました。

そして先程は卒業証書をいただくため、たく高等学校第75回卒業生になられたのであります。誠におめでとうございます。

卒業式の概要

今年度の卒業式は新型コロナウイルス感染症拡大の対策を徹底し規模を縮小しながらも4年振りに在校生や来賓の出席のもと実施した。

3月1日朝8時20分、卒業生185名が金光教本部広前に学園生として最後の参拝をし、藤井一鷹さんが卒業のお礼と新しい生活へ向けての決意をお届けした。

第1部の式典は、ほつま体育館にて10時に開式。国歌静聴の後、金光道晴校長より総代の村上 颯さんに卒業証書が授与された。続いて、校長式辞の後、和泉正一理事長より記念品として金光教教典抄「天地は語る」と四代金

光様のお筆になる「学園の合言葉」の色紙が総代の堤 万菜さんに贈られた。さらに、岩崎道興金光教務総長の挨拶、栗山康彦浅口市長の祝辞、送辞（宮本望愛さん）、答辞（平田大輝さん）と続き、最後に「金光学園歌」静聴で第1部は閉会した。

第2部の祝宴は、引き続きほつま体育館で行われた。最初に学園生活の3年間を振り返る「あしあと」が長谷川 亜矢先生、鳥越暁子先生、土井康広先生の司会のもと、高3学年団を中心に上演された。写真とナレーションで入学式、ほつま祭、体育会などの楽しかった日々を思いを馳せた。続いて卒業生保護者代表 松井直子氏より謝辞が述べられ、祐延明香氏より記念品目録生徒用情報端末30台の贈呈が行われた。終わりに卒業生代表の坂本沙織さん、学校代表の横山俊則高校教頭よりそれぞれ謝辞が述べられ、拍手に送られて卒業生は学園を巣立った。



岩崎道與 金光教務総長

さて、皆さんにとつての3年ないし6年間の学園生活はどうだったでしょうか。皆さんは3年間の高校生活で、最も大きくコロナ感染の影響をうけた学年だったと思います。入学式を終えた直後に長い休校期間に入り、オンライン授業から高校生活がスタートしました。友達に会う事も、部活動をする事も出来ませんでしたし、高2では楽しみにしていた修学旅行も行けず、ほつま祭が中止になったり、体育会も大きな制限の中の開催となったたり、本当に残念な思いの連続だったと思います。

しかし、そんな中で、皆さんは弱音を吐かず、泣き言を言わず、しっかりと現状を受け止め、明るく元氣よく本当に良く頑張ったと思います。

私はそんな皆さんに週に一時間ではありましたが、宗教の時間で色々な話を聞いてもらったり、皆さんのスピーチも聞かせてもらったり、皆さんと顔を合わせたのが大変楽しみで、元氣をもらったようなことであります。

私は今、今日の卒業式を学園での最後の教育の場として、また最後の宗教の時間のつもりでお話をさせていただいていますが、昨日は卒業式を前に、皆さんの詠んだ「卒業短歌」や「ほつま新聞」を読ませてもらいました。卒業短歌についてはこの後の二部の祝賀の「あしあと」でも紹介されると思いますし、後日発行される「やつなみ」でも取り上げられていますので、そちらに譲りたいと思いますが、ほつま新聞の卒業生の「金光学園で得たものは？」の文章では、部活動のこと、友達や先生のこと、両親への感謝の気持が綴られていましたが、どの文章も胸が熱くなる思いで読ませていただきました。

ない人は改めてゆっくり読んでいただきたいと思ひますし、保護者の方にも見せて欲しいと思ひます。

皆さんは今日、この学び舎を巣立って行くわけですが、皆さんが生きていくこの21世紀はまだ人類が解決しなければならぬ問題が山積しています。地球規模の環境問題、資源・エネルギー問題、人権問題、難民問題、核兵器の問題、世界平和に向けての問題などがあります。ロシアのウクライナ侵攻やトルコ・シリアの大地震などいたたまたまれない気持

栗山康彦 浅口市長



特に嬉しかった三人の文章を紹介したいと思います。最初は次のようなものがあります。「学園の人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という合言葉や宗教の授業で、学園との関わりのある偉大な先人の方々のお話が聞けたお陰で自分の価値観や物の見方が変わってきた。自分がこうやって不自由なく過ごしていることが当たり前ではないことを強く感じた」というものです。

二人目は「高3での金光教の大祭参拝は一昨年、昨年とできなかったが、私達の学年は無事行うことができた。また創立記念式の本部参拝も私は毎年楽しみにしていたが2年間は今全生徒による参拝は中止になったため残念に思っていたが、高校生活最後の記念式で実施されたので、感激した」

そして、三人目は「学園生活で得たものを糧にし、人を大切にできる人になり、人から頼られるような人生をおくりたい。私の夢は小学校の先生になることだ。その夢が叶ったら人を大切にすることを伝えて行きたい」というものです。本当に嬉しく有り難く読ませていただきました。昨日配られたと思いますがまだ読んでい

ちになる出来事が続いています。

皆さんは、既にほとんどの人が18歳成人となつていますが、これからは成人として、大学生として、またその後は社会人として新しいステージに立つわけであります。是非これらの問題を解決するための意識もしっかり持ち続けていって頂きたいと思ひます。

しかし、皆さんの卒業後の生活は、これまでのようにいつも温かい支援や理解のあるものとは限りません。大きな試験や厚い壁、そしてどうすることも出来ない困難にぶつかるともあると思ひます。そんな時、是非金光学園で学んだ「母校の心」思い出してみてください。このあと理事長先生から頂かれる「天地は語る」や「合言葉」の色紙もきつとこれからの人生においても、大きな指針となると思ひます。どうぞ生涯、大切にしていって欲しいと思ひます。

皆さんはここまでの学園生活で、勉強はもとより、健康な体、大切な友、そして何より、感謝の心や思いやりの心など、人として大切な心を身につけることができたと思ひます。皆さんのご健勝とご多幸とここからの一層の活躍を心から

送 辞

在校生代表 宮本 望愛



やわらかな日差しの中に、ほのかな春の香りが漂う季節となりました。このような良き日に旅立ちの日を迎えられた卒業生の皆様、ご卒業おめでとう、ございます。在校生一同心よりお祝い申し上げます。

今、この場に立ち、先輩方の姿を拝見しておりますと、数々の思い出が走馬灯のように浮かんできます。新型コロナウイルス感染症拡大の影響

により、先輩方が高校2年生の時のほつま祭は中止となり、3年生の時には、ほつま祭は開催されたものの、模擬店は実施することができませんでした。そのような中、唯一行うことができた1年生のほつま祭では、全クラスが展示に取り組みました。コロナ禍をいかに楽しく過ごすかについてや、海をテーマにしたものなど、先の見えない不安の中だからこそ、前向きで楽しくなるようなテーマ設定がされていました。また、来訪者に一つ一つ丁寧に説明されていた先輩方の姿は私たちの模範となりました。楽しみにされていたはずのほつま祭が2年生、3年生と実施されなかった分、体育会では、一つ一つの競技に全力で取り組まれ、どの学年よりも輝いて見えました。その中でも、今年度の体育会の障害物競走では、3年生の先輩が、困っている後輩や先生を助けていた姿が印象に残っています。また、長縄跳びでは、200回を越える回数を跳ぶクラスもあり、先輩方の団結力を見せつけられました。体育会を盛り上げ、今を全力で楽しもうとする先輩方に元気をいただきました。

探究授業では様々なゼミ活動に熱心に

心のうちには様々な葛藤があり、何度も涙をこらえてきたことだと思います。しかし、先輩方は先が見えない不安の中でも、常に前を向き、私たちを鼓舞してくださいました。いつも先頭に立ち、導いてくださったおかげで、私たちも一つ一つの本番を必ず成功させたいという気持ちが強くなっていきました。自らが全力で頑張ることは、周りの人の心をも動かす。それを身にしみて感じることできました。そして、私たちに、本気になることの大切さを教えてくださいました。

部活動だけでなく、日々の登下校や自習室などで目にした先輩方は、様々な困難にも負けず、自らの夢をつかみ取るために力強く進まれました。どの先輩方の姿も私たちには輝いて見えます。私たちが励まし、高めてくださった先輩方から学んだことをかけがえのない財産として、私たちは、それをしっかりと受け継いでいきます。

先輩方は、今日を境に新しい世界に向かって大きな一歩を踏み出されます。困難にぶつかることもあるでしょう。そのようなときは、金光学園の「人を大切に自分を大切に 物を大切に」という合

取り組まれました。特に、デニムゼミが、第2回リアビズ高校生模擬企業グランプリで金賞を受賞されました。

また、部活動でも輝かしい結果を残されました。運動部では、バレーボール部が全国私学大会に出場、少林寺拳法部が中国大会、全国選抜大会、インターハイに出場、柔道部が中国大会に出場しました。文化部では、音楽部吹奏楽団が第50回定期演奏会を開催しました。また、美術部では、令和4年度高校生美術コンクールの静物デッサン部門で金賞、風景画部門で銀賞を受賞しました。

私たちは先輩方の活躍された姿を胸に刻み、目標にしてこれからも頑張っていくと思います。

さて、私事で恐縮なのですが、先輩方とのエピソードを一つ紹介させていただきます。私は中学1年生の時、音楽部吹奏楽団に入部しました。私が吹奏楽団に入る決意をした最も大きな要因は、部活動体験で何もわからず不安でいっぱいだった私に、先輩方がとても温かい言葉をかけてくださり、親切な対応をしてくださったことです。上級生となった今でも、あの時の先輩方の姿は忘れることなく、心

言葉の通り、強い信念をもって自分らしく夢に向かって歩み続け、輝かしい未来を切り開いていってください。先輩方のご健康とますますのご活躍を心からお祈りし、送辞とさせていただきます。

答 辞

卒業生代表 平田 大輝



春の訪れを感じさせるこの良き日、私たち186名は卒業式を迎えることができます。本日は私たち卒業生のために、このような厳粛で盛大な卒業式を挙げてくださり、ありがとうございます。卒業生一同、心から御礼申し上げます。

思い起こせば3年前、真新しい制服に



に残り続けています。2年前、先輩方が高校1年生の時、新型コロナウイルスという、目には見えない敵が世界を襲いました。そのような中、部活動ができない日々が続き、例年なら行はずであった演奏会やフェスティバルがいくつも中止になりました。きつと

身を包み、学園生としての第一歩を踏み出した日が、つい昨日のこのように思われます。あの日から私たちは新型コロナウイルス感染症や世界情勢の変化といったさまざまな困難に直面しながらも、素晴らしい仲間たちとともに、今日という日を迎えることができました。

新型コロナウイルス感染症は、今なお世界規模で拡大と収束を繰り返しています。クラスター、ステイホーム、ソーシャル・ディスタンスなど、それまで聞き慣れなかった言葉が広く一般的なものになりました。マスクの着用や黙食の習慣化だけでなく、メイクアウトの需要が高まり、インターネットショッピングの利用が増加するなど、私たちの生活習慣も大きく変化しました。

そのような中、明るい話題として昨年12月にカタールで開催されたサッカーワールドカップが挙げられます。ワールドカップは、夏季オリンピックと並んで全世界の注目度が最も高く、経済規模においては夏季オリンピックを凌ぐほどの世界最高峰の大会と位置付けられています。今回、日本代表チームが強豪のドイツとスペインに歴史的な逆転勝利を収めるなど、

チーム一丸となった選手たちの雄姿に大きな感動と勇気をもらいました。しかしながら、ワールドカップは世界中の人々を熱狂させる大会である反面、過去には移民問題や貿易摩擦などの問題を抱えた国同士が対戦し、その結果、相手に対する負の感情が高まり、国交を断絶し、戦争に繋がったというケースもありました。今回は、反対に戦争がワールドカップに大きな影響を与えました。それには、1年前から始まったロシアによるウクライナへの侵攻が関係しています。ロシアは前回大会の開催国であり、ベスト8入りを果たした実力国ですが、今大会では、欧州各国の非難の声を受けて出場停止となりました。ウクライナでは、母国を守るために戦闘に加わったサッカー選手が亡くなるなどの悲劇が起きています。母国のサッカーチームの活躍を応援したい一般市民が戦争により血を流し、過酷な生活を強いられていることが悲しくてたまりません。多くの選手が躍動した大会の裏で、日常生活が制限されて、スポーツの祭典を心の底から楽しむことができず、人々が数多くいる現実から、私たちは目を逸らしてはならないと感じています。

私たちの高校生活もコロナ禍により制限されることが多くありました。入学早々、戸惑いながら自宅でオンライン授業を受けたことを鮮明に覚えています。楽しみにしていた行事が縮小や中止になるなど、思い描いていた高校生活とは大きく異なっていた日々を送る私たちにも一つ嬉しいことがありました。それは、かつて中止になった修学旅行がユニバーサルスタジオ・ジャパンへの一日旅行という形で実現したこととです。学校外で同級生と過ごすことはとても新鮮で、ひとときの間に、受験勉強を忘れて友人と一緒に乗ったアトラクションは一生の思い出となりました。

私たちは、これまでに出席してきた多くの人たちに支えられてきました。金光学園で過ごした185名の同級生たち。クラスや部活動で、時には励まし合う仲間として、時には良きライバルとして、互いに研鑽し合いました。また、探究活動を通して、岡山県の活性化や、自ら興味関心のあることに取り組み、同じ研究テーマを持った仲間たちと知見を広げること、自分たちの将来像をしっかりと捉えながら成長することができました。毎日と一緒に過ごしてきたみんなは、本当に



かけがえない存在です。これからは別々の道へと進みますが、苦楽を共に過ごした日々は決して忘れません。多くの面で支えてくださった先生方。先生方の献身的な支えによって、私たちは安心して高校生活を送ることができ、それぞれの進路に向かって着実に歩みを進めることができました。生徒一人一人の意思を尊重し、真摯に向き合ってくださいました先生方のおかげで、今の私たちがあります。そして、私たちの成長を一番近くで見守ってくれた家族。意見が合わずぶつかることもありました。いつでも私たちのことを思い、背中を押してくださいました。何気ない日常の会話や食事、愛情のこもったお弁当、一緒に出掛け楽しい時間を過ごしたこと、小さな一つ一つが心の支えになりました。

私たちは今日、大切な人々からの巣立ちの日を迎えました。これまでに積んだ経験が未来を切り拓き、それぞれの夢を叶える力になっていくと私たちは確信しています。将来の夢に向かって自分の道を歩み、より立派な一人の大人に成長していきます。

これからの金光学園を担っていく在校生

生の皆さんに伝えたいことがあります。どんな状況でも向上心を忘れず、常に挑戦し続けてください。失敗することもあっても大丈夫。くじけることもありません。高校生活はあっという間に過ぎてしまいます。だからこそ、自分の可能性を信じ続けてください。そうすればきっと、将来につながる道が見えてきます。

本日を持ちまして、私たちは多くの時間を過ごしてきた金光学園を卒業し、夢や目標に向けて、次の一步を踏み出します。母校で培ってきたことを糧にして、私たちは輝ける未来を創造します。合言葉である「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」を胸に、新たなことや困難なことがあっても積極的に挑戦していくことを誓います。

最後になりましたが、私たちを支え、見守ってくださいましたすべての人々たちからの感謝を申し上げますとともに金光学園のさらなる発展を願い、答辞とさせていただきます。

答辞 送辞はそれぞれの起草委員会で作られたものである。

◇答辞起草委員◇

高3 堤 万菜 平松 莉奈
坂野 友美 三宅 彩乃
佐藤 心南 佐藤 伶美
平田 莉沙子 伊藤 彩香
藤澤 玲子 平田 大輝
横田 星八 堂前 有輝

◇送辞起草委員◇

高2 鶴本 咲月 井上 咲乃
宮本 望愛 板森 崇秀
小野 喜輝 森上 葵
安井 大稀 浅野里佳子
岡崎 葵 小野寺天賜

高1 齋藤 一貴 不動寺優斗
妹尾 彰大 内田 圭祐
城戸 直之

贈る言葉

強い信念を持つ

籠崎 恒祐

ご卒業おめでとうございます。皆さんにとっては、思い描いたものとはかけ離れていた高校生活だったと思います。ただ、私にとっては、大きな行事が縮小や中止になる中、休憩時間や掃除時間にマスク越しに見せてくれる皆さんの笑顔に励まされた3年間だったように感じます。

さて、NHKの大河ドラマには人気俳優が出演していることもあり、視聴している人が多いかもしれません。私は、時代背景や有名な武将の名前さえ知らないことが多く、大河ドラマもほとんど観たことがありませんでした。そのような時、ある先生から「自分の専門分野だけでなく、歴史の本も読むべきだ」と言われて紹介されたのが吉村昭の『冬の鷹』という小説です。これは歴史音痴の私でも知っている『解体新書』（ターヘル・アナトミアの訳書）に関する歴史小説です。ターヘル・アナトミアの翻訳には多く

の人が関わっていますが、その中心にいたのが、医師である前野良沢と杉田玄白です。オランダ語の注釈付きの解剖図が日本医学の知識と異なっていることに二人は驚き、正確な知識を伝えたいという気持ちが一一致して翻訳を開始しました。しかし、実際に翻訳作業に携わったのはオランダ語に関心が高かった良沢であって、玄白は頑固な良沢が機嫌を損ねず作業に取り掛かれる環境を整え、校正や出版の実務を担当したそうです。現在で例えると、作家が良沢、編集者が玄白といったところでしょうか。

3年もの試行錯誤を経て、ようやく翻訳作業が完了しました。ところが、「翻訳が不完全なので出版は見合わせるべきだ」という良沢と、「早く世に出して医学の助けにしたい」という玄白は考えの違いかから疎遠になりました。そして、発行を急ぐ玄白に良沢は自分の名前の掲載を断つたため、翻訳者名として玄白の名前だけが記載されて解体新書は出版されたので



卒業生保護者お礼の言葉

す。その後、良沢は医療にほとんど携わらずオランダ語の文献の翻訳を一人で進めるという生活を続けました。一方、玄白はオランダ医学の先駆者として一躍有名になり、志を持った若い医師の育成に励むという両極端な人生を送りました。

良沢と玄白は互いに、性格や考え方の異なる相手に対して腹立たしいと思つたことが多々あったことでしょう。しかし、両者とも確固たる意志を持っていたことが偉業に繋がったと私は考えます。現代の社会では江戸時代以上に様々な生き方

が可能であり、どれが正解なのか決断に迷ってしまうがちです。しかし、良沢と玄白のように強い信念を持って行動すれば、後悔せずに納得のいく生き方ができるのではないのでしょうか。これから皆さんがどのような人生を送るのか、とても楽しみにしています。

星に願いを

岡田 伸彦

もう二月近くも前のことですが、ある保護者と夢についてお話しする機会がありました。もちろん、布団に包まれて見る夢ではなく、「壮大な夢を描く」「幼い頃からの夢を叶える」の方です。志望大学は果たして夢と呼べるのか？ 夢と言え一般的には職業を指すことが多いのではないかと？ やり取りを重ねるうちに、そんな流れになりました。

将来の夢は何かと問われたら、皆さんはどう答えますか？ やはり就きたい職業について語る人が多いのかもしれませんが。しかし、海外では必ずしもそうではなく、こんな風に生きていきたい、あんな大人になりたいと答える割合が高いそうです。

もしも、夢というものが職業に限定されるのであれば、大半の人間は20歳そこで夢を喪失してしまうことになりそうです。その場合、残された60年、70年をどのように生きていけばよいのでしょうか？ 想像するだけで、そろ恐ろしい気持ちに襲われそうです。

ヨルシカの「ヒッチコック」が好きなのですが、曲が終盤に差し掛かると、いつも胸の内がざわざわと波立ちます。

先生の夢は何だったんですか。大人になると忘れちゃうものなんですか。

透明感のある耳障りのいい声で、不遜に囁き掛けてくるsuisに向かって、私も唇の右端を上げながら心の中で応じます。ああああ、ひよっとして知らないのですか？ 大人にだって夢はあるのですよ、と。

言うまでもなく、仕事は大切です。けれど、それはあくまで人生の一部であり、個人を構成する一側面に過ぎません。たとえ、どのような職業に就いたとしても、生きていく限り、皆さんの中では次々に新たな夢が芽生えるはずですよ。夢という表現に気後れするならば、希望や願いと

言い換えてもいいでしょう。

流れ星に向かって3回願いごとを唱えると叶う。そんな話を聞いたことがありますよね？ あれは迷信でも絵空事でもない真実です。流れ星が消えてしまう一瞬に、3回も口にする事ができるということは、いつでもその願いを胸に抱き、努力しているということですから。

終わりに、私の夢をそっと打ち明けます。一つは、できるだけ多くの人の心に響く物語を書き上げること。そして、もう一つは、20歳を迎えた皆さんと杯を酌み交わすことです。後者がうまく叶った暁には、互いの最新の夢を肴に楽しく飲みましようね。

輝かしい未来に向けて、新たな一歩を踏み出した皆さん。改めて、ご卒業おめでとうございます。どうか、流れ星に向かって願いごとを3回唱えられる大人になってください。それでは、また会う日まで。ごきげんよう。

正しいものを見極める力

平賀 康

3年生のみなさん卒業おめでとうございます。みなさんと3年間を共に過ごせ

たことをとても嬉しく思います。

みなさんの3年間を振り返ると、まさに新型コロナウイルスに翻弄された3年間ではないでしょうか。入学式後からの度重なる休校や部活動の停止、行事の中止や延期も数え切れないくらい味わいました。みなさんの楽しみにしていたものがなくなる度に、我々教員も非常に苦しい思いをしていたことが思い出されます。私自身この3年間で「本当に正しいことは何なのか?」「今、何をすることが最も正しいのか?」「何度も何度も自問自答しました。様々な情報を調べれば調べるほど何が正しいのか分からなくなり、心が病んでいったように思います。そのような中、ある先生が言った言葉が悩んでいた自分を救ってくれました。その言葉は「私は、生徒のことを一番に考え、生徒にとって今、一番必要だと思う行動をやり続けます」といった言葉でした。その言葉により、いろいろな情報に惑わされ自分の考えがその時々でブレてしまっていることに気づかせてもらいました。その後は自分の中でブレない柱のようなものができて、悩んだ時は生徒にとって一番大切なものは何かを考えれば、自ずと答えに

近づけたような気がします。

近年のIT技術の進展により、世に出回る情報量は膨大なものとなり、それを受け取る側に求められる、読み取る能力もとても高くなっています。人生の転換点において、正しい情報を受け取るということが、社会での競争を勝ち抜くポイントになるはずですが。多くの情報が伝わり、迷うこともあるでしょう。その時は、みなさんの一番大切にしているものを判断基準の柱とすれば、正しいものを見極められブレることなく突き進んでいけると思います。

コロナによってたくさん我慢し、悩んだことだと思います。新しいステージでは、高校時代にできなかったことをたくさん経験して大きく成長して欲しいです。そして、多くの情報に惑わされることなく、世のお役に立てる人材となって金光学園に帰ってきてください。みなさんの成長を楽しみにして職員室で待っています。

「挑む」気持ちを持ち続けよう!

井上 裕介

ご卒業おめでとうございます。皆さん

なかなか乗れるようにならず、ペダルをこいでどんどん進んでゆく同級生を一生懸命走って追いかけていた記憶が、今でも残っています。はじめて自転車に乗れたのは小学2年生だったか、3年生だったか。自転車から原付へ、原付から中型バイクへと年齢とともに乗り物は変わってゆきましたが、あの頃の自転車(二輪車)へのささやかな憧れが、私の中に残り続けているのかも知れません。

あなたが卒業後にやってみたいことは何ですか? 学年通信のタイトルになっている漢字である「挑」には「いどむ、しかける」という意味があるそうです。時には自分の欲求に、素直に従って、いろいろなことに挑戦しましょう。主体的に活動して人生を豊かなものにしていくてください。皆さんのさらなる活躍を祈っています。

心の力

長谷川 亜矢

ご卒業おめでとうございます。この3年間コロナに翻弄されながらも、行事を楽しもうとする姿や自分の信念を持ち目標に向かって頑張ろうとする姿を見た

びに、とても頼もしく誇らしく感じました。そんな皆さんと出会い関わられたことにとっても感謝しています。そして、大好きなみなさんの人生に少しでも役に立ててもらえればと思い、一冊の本を紹介しています。一つの道標となれば幸いです。

「すべては、心」に始まり、心」に終わる」
「心がすべてを決めている」これは、京都セラミック株式会社(現京セラ)や第二電電(現KDDI)を創立した稲盛和夫

さんの著『心』人生を意のままにする力』に書かれた言葉です。この本には稲盛さんの生い立ちから、この二つの企業を創立し、名誉会長・最高顧問などを経て、さらに日本航空の立て直しを行った際のこと書かれています。会社経営の原点には、「人間として何が大切なのか」を考え、「利他の心」で生きることが大切だと述べられています。「利他の心」は「相手を思いやる心」のことです。そして、幾多の苦境にたたされていても経営に必要なのは、あきらめない意志の力、ネバギブアップの精神だとも言われています。半世紀以上経営者を務めた稲盛さんの極意は「心の持ち方」であり、成功も失敗もすべて「心に始まり、心に終わる」です。

担任として3年間、皆さんと関わることで、とても幸せでした。ありがとうございました。

皆さんの高校生活にはたくさん制限がありました。やりたいことができなかったり、楽しみにしていた行事が中止になったりと、心残りも多かったと思います。5月から新型コロナウイルスの5類移行に伴って、様々な制限が解除されていくことでしょう。その暁にはぜひ、高校ではできなかったこと、新しくやりたいと思ったこと、どんどん挑戦していきましょう。

個人的な話ですが、昨年34歳ではじめて中型バイクの免許をとりました。夏は暑く、冬は寒く、時に怪我したりもしましたが、景色のいい道を、思いのままにバイクを駆るのは本当に気持ちがいいです。経済的に余裕ができれば、大型バイクの免許もほしい。もっと遠くに行ってみたい。できれば夏の北海道を走りたい。夢は尽きません。

なぜ自分はこんなにバイクに惹かれるのか。振り返ってみれば、幼少期の体験がその根底にあるのかもしれない。小さい頃の自分は体が弱く、また運動神経も非常に鈍い子どもでした。自転車にも

みなさんもこれから、長い人生の中で、様々な経験をしたいと思います。事態をよくするのも悪くするのも自分の「心」次第です。コロナ禍でも学んだように、つまらないと思えばつまらない高校生活しか送れませんよね。せつかくの人生なのだから、ポジティブな気持ちで、素敵な人生を送る方がいいと思いませんか? 心」こそが、幸福な人生への扉を開く鍵なのです。

みなさんのこれからの人生をネバギブアップの精神で悔いのない、良いものにしてほしいと願っています。もし興味がわいたら、この本を読んでみてください。最後に本当に卒業おめでとうございます。いつでも金光学園に帰ってきてください。私たちは、いつまでもみなさんの応援団です。

充実した人生を

藤井 幹久

ご卒業おめでとうございます。高校2年生の時のみなさんと出会い、2年間英語や進学指導、担任としての関わりなどを通して、みなさんに刺激され、また貴重な経験と学びを得ることができました。

ありがとうございました。予想外に長引いたコロナ禍の影響もあり、みなさんは高校生活で、入学時に想像もしていなかったような苦労も経験されたかもしれないですね。また、次のステップへの挑戦である大学受験などはきつとみなさんに、乗り越えなければいけない高い壁を突きつければ、その困難さから逃れたい気持ちになったり、実際にうまくいかず悔しい思いをしたりしたこともあったことでしょうか。

では、苦しみや不幸がないように傍から見える生活を送ることが、善い人生なのでしょか？ 順風満帆で苦労のない生活が、その人が人として成長し、その人生が充実しているといえるのでしょうか。私は、しんどいことに対し、工夫して一生懸命立ち向かった経験やそれを乗り切った経験が、大きな充実感や自信をその人に与えると考えています。

これからみなさんが歩む長い道のりの中では、自分の思い描く形と違う出来事や、以前よりもさらに大きな壁にぶち当たったこともさまざまあると思います。うれしい出来事やそれを支えた人に感謝し、苦しいことに前向きな意味を見出し、その先の自分の成長につなげる、充実した

人生を歩んでいただきたいと強く願っています。そしてそれぞれが置かれた場所で輝きを放ち、ともによりよい社会を築いていきましょう。

ここからが始まり

久繁 正人

ご卒業おめでとうございます。コロナ禍の2年前に皆さんと出会い、マスク生活のため、マスクを外した皆さんの顔をほとんど見ることがお別れすることを少し残念に思います。それでも、普段の何気ない生活の中で見たマスク越しでも分かる飛び切りの笑顔が非常に印象的です。コロナ禍のため、多くのことに制限がかかった高校生活だったと思われれます。その中でも自分なりに工夫して様々なことに挑戦した人もいれば、やりたかったことを十分にやり切れなかった人もいると思います。そんな皆さんに贈りたい歌詞があります。

『もうすぐ今日が終わる やり残したことはないかい 親友と語り合ったかい 燃えるような恋をしたかい 一生忘れないような出来事に出会えたかい かけがえないのない時間を胸に刻み込んだかい』

またすぐ明日に変わる 忘れてしまっていないかい 残された日々の短さ 過ぎ行く時の早さを 一生なんて一瞬さ 命を燃やしてるかい かけがえない時間を胸に刻み込んだかい(かりゆし58 オワリはじまり)

高校生活でやり切れなかったことは確かにあると思います。後悔が残ってしまったということもあると思います。それでも、皆さんには無限大の可能性が広がる新しい明日がやってきます。いろんなことに挑戦することは、いつからだって大丈夫。心を燃やして、自分だけの人生に挑んで欲しいと思います。これからの皆さんの活躍に期待しています。

ありがとう

土井 康広

金光学園での人生で初めて高3学年団に所属し、卒業生を送る機会を頂きました。ここまで本場にありがとうございました。みなさんと3年間を積み重ねていく中で私自身何度も自分を振り返る機会をもち、学ばせて頂きました。

【目的を達成するために精神の力と身体

力を最も有効に動かす】

ここからの人生、みなさんは敷かれたレールの上をただ言われた通りに歩くのではなく、自ら考え、トライ&エラーを繰り返しながら積み重ねていくことになります。

【目の栄えのみを目的とせず、助け合い、譲り合い、共に栄えることを目指す】

一人の大人として、自身の人生を満たしていく一方で、そのすべての活動は自分以外の誰か、あるいは自分を取りまく集団にとっても満たされるものであることが望ましいです。やむを得ず衝突する場合もありますが、可能な限り調和を図ろうとすることが大切です。

これらは柔道の創始者である嘉納治五郎先生の教えです。みなさんと積み重ねた日々を振り返るとあなたたちの多くがすでにこの教えを体得し実行できているように感じます。分かっていたようで分かっていなかったものに気づけたような気がします。

みなさんは、これからの人生でさらに成長していくと思います。その成長があなたたち自身の幸福に繋がることを

願い、さらにあなたたちと縁を持つ他のひとたちにとつての幸福に繋がることを願っています。金光学園高校のご卒業おめでとうございます。

大空へ 常に軌道修正を

服部 和人

スイスのベストセラー作家、ロルフ・ドベリ氏は著書の「Think Clearly」最新の研究から導いた、よりよい人生を送るための思考法(翻訳:安原実津)の中で、次のようなことを述べています。

皆さん、想像してみてください。あなたは今、フランクフルト発ニューヨーク

行きの飛行機に乗っているところです。飛行機中、機体が予定されたルート上を飛んでいるのは、飛行時間全体のどのくらいの割合だと思えますか？

90パーセント？ 80パーセント？ それとも70パーセント？

正解は「ゼロパーセント」だそうです。

飛行機の窓側の席に座って翼の淵のあたりを見ていると、「補助翼」がしきりに動いているのが分かります。補助翼の役割は、飛行ルートを絶えず修正することにあるようです。自動操縦装置は、毎秒何回も予定位置と現在位置とのずれを感じ、舵の役目を果たす翼に修正指令を出しています。

同じことは、私たちの人生にも当てはまります。理想はもちろん飛行機と違って、予測や計画通りに進むスムーズな人生です。そのために、せめて最適な前提条件をそろえておこうと全てにおいて完璧な条件をそろえたいがります。ところが物事が思い通りに進むことは少なく、人生は常に乱気流の中にあつて予想外の悪天候と戦わざるを得ません。私もかつて深夜便で熟睡していましたが、乱気流(空



卒業短歌

1組

朝早く陽が出る前に家を出る
勝利のために今日も声出す
飯田 大成

六年間すっかり慣れた学び舎が
ちいさく見えるあの時よりも
友田 隼咲

ストレージ溢れて積もる思い出を
かかえきれずに君に共有
葉上 彰丸

授業中腹が満たされ眠くなる
睡魔と闘え！ 負けるな私
佐藤 彩加

2組

ピッチャーのショーバンうけどめ腕にあざ
次の日見ると一球の重み
石原 響生

任された主将の役目日々悩み
やり切り気付く仲間の存在
河崎龍之介

コロナ禍で何もない日々色づけた
友の存在未来の支え
泉 のどか

君が代を歌った日から早三年
成人年齢未来を背負う
宮田 知佳

3組

玄関でいつも受けとるお弁当
母との掛け橋握るマイ箸
浅野 優斗

体育会結果はいつも最下位に
全力出しきり青春の汗
岡本葉太郎

授業後に毎日通う自習室
将来に向け教材広げ
小野龍太郎

聞いてますそんな顔して聴く授業
差し込む日差し飛んでくたましい
前山愛菜佳

4組

スタンドも一心となり戦った
仲間との日々消えぬ思い出
安達 唯月

ありがとうこの机とお別れだ
落書きしちやつてごめんなさい
藤井 依央

友人とともに過ごした日常が
かけがえのない思い出となる
尾田 真菜

テスト期間やる気がないまま時間経ち
焦って迎える当日の朝
木村 水稀

5組

手が震え脚が震える面接の
練習こそが力なりけり
近藤 高弘

六年を共に歩んだシャーペンの
「く」の字のひびをふわりと撫でる
平田 大輝

6組

弁当箱開けるその度思い出す
ぎつしりつまった夢やぬくもり
荒島 賢人

桜咲く気づけばすでに門出の日
胸はる僕と縮んだ制服
古城 由基

振り向くといつもと同じ親の顔
「いつてきます」と小走りをする
金光 文夫

聞こえてくる懐かしいあの楽器の音
指に染みつく練習の跡
小川 里沙

7組

生物部冬場の採集川の中
川の外より少しあったか
立畑 直広

駆け上がれ自転車飛び降りあと一分
チャイムの余韻鳴り止む前に
平田 晴之

ウイルスと共存しようとして三年間
自由にできず制限ばかり
三好 大祈

曲がるまで手を振り続ける父と母
残りわずかの日々をかみしめ
森光 彩夏

卒業を前に思うこと

生徒

TRACE

1組 六原 未智

気づけば、私の金光学園生活の8割以上が部活動に染まっていました。インターハイに行くぞという決意で陸上競技部に入部した私は、部の一員であるという自覚を常に持ちながら、毎日の練習に励みました。走幅跳と三段跳を専門種目としていましたが、記録が伸び悩み、焦りを感じることが多々ありました。高2の県大会、スランプを乗り越え、中国大会に出場を決めたことは忘れられない思い出であり、とても大きなものを得ることができたと思います。その頃から徐々にキャプテンとしての役割を担うようになりました。誇らしい反面、自分が部を引っ張っていきけるのか、と精神的に辛い時期がありました。そんな時に手を差し伸べてくれたのは友達です。私と一緒に爆発的な笑い声で悩み事を一気に吹き飛ばしてく

れました。コロナの影響で様々な事が制限されてきましたが、毎日、友達と他愛ない話をするだけで楽しいと思えました。

長いようで短かった学園生活が終わりを迎え、春から大学生となる私は、まだ知らない新しい環境が待ち切れません。学園生活で培った経験を次に繋げられるよう、今後の人生も後悔のない生き方をしていくつもりです。結果の成否に関わらず、失敗を恐れず挑戦する姿勢を学ぶことができました。さらに、今後はスポーツの分野だけでなく多分野に挑戦していきます。迷った時は「心躍るほうへ」。今まで育ててくれた両親、支えてくれた友達、先生方、本当にありがとうございました。

野球を通して学んだこと

2組 大島 聖也

私がまだ6・7歳の時に見た高校野球の決勝戦、関西対金光学園の試合。甲子園まであと一歩だった試合。小さい頃に見たのに今でもあの試合を覚えています。

などと思います。正直高校生活は楽しい思いよりしんどい思いをしたことの方が断然多かったです。それでも最後までやり切ることができたのは間違いなく支えてくれた人達のおかげです。このような苦い経験をプラスに活かせるかは今後の自分次第だと思います。これから先もさまざまな困難が待ち受けていることでしょう。その度にこの経験を思い出し、心の余裕と信念を持って乗り越えていこうと思います。

最後に話は少し逸れますが、岡山学芸館がサッカーで全国制覇したことは記憶にも新しいと思います。テレビで決勝戦を見ましたがとても感動させられました。同じ高校3年生なのにです。スポーツにはそれほど魅力があり、人を感動させる力があることを再認識しました。私は強かった時代のようないろんな人に応援される、控え選手であってもチームのために全力を尽くしたいと思える金光学園野球部を作ってほしいです。野球部が強くなって甲子園を目指せるチームになるとは、学校へ経済的にも精神的にも活気をもたらすことになると思います。個人的に思っています。勝手な願いではありますが、さ

まざまな力を味方につけて野球部の皆さん、そして先生方頑張ってください。陰ながら応援しています。

成長

3組 新田 晃岐

私は高入生として学園に入りました。が、内部進学の生徒に馴染めるか心配でした。それに、私の地元は学園から遠く、親元を離れて寮生活をしなければいけませんし、とても不安でした。しかし、そんな心配は必要なく、寮の先輩やクラスメイトが温かく迎えてくれました。

私は金光学園に入学して3年間、多くのことを学んできました。

一つ目は、団結することの大切さです。私はバレーボール部に所属していました。バレーボールはチームスポーツで、一人の力だけでは試合を動かしたりすることはできません。何度も壁にぶつかりながら、チームで一致団結し、その壁を超えることができた時、団結することの大切さに気づけました。

二つ目は人を思いやる心です。高校生になり、高3では成人して、社会とはなにか考える機会が増え、色んな人が支え

その時に初めて金光学園を知りました。私が10歳の時には金光学園は秋の県大会で優勝しました。その時には私も野球をしていましたし、兄が金光学園に通っていたので、金光学園でレギュラーを取って甲子園を目指したいと思うようになりました。そのような気持ちで入ったわけですが、中学最後の大会では予選敗退、高校最後の大会は2回戦敗退。高校最後は試合にすら出ていません。

野球を通して学んだことは、心に余裕を持つこと、揺るぎない信念のようなものを持つことの大切さです。私は不調になった時、何をすれば上手くいくか必死に考えました。考えれば考えるほど自分が自分に合うか分からなくなつたし、いろんな人のアドバイスを全て鵜呑みにしていました。アドバイスはあくまで自分の引き出しを増やしてくれるものであって、それが正解とは限りません。重要なのは自分が自分に合うの必要なか見極めて継続することでした。最後まで上手くいくことはなく、1年生の秋に掴んだレギュラーももう一度掴み直すことはできなかったです。今考えるとあの時は焦りから心に余裕がなく冷静でいられてなかった

あつて社会ができていたと思えました。そこで、人を思いやる心がなければ治安が悪くなり、平和ではなくなります。今の当たり前の日常を大切に生きていきたいと思えます。

金光学園での3年間は、これからの生活に役に立つと思います。色んな壁に阻まれた時、挫折しそうな時、そういつた時にこの学園生活で学んだ忍耐力や知識



を使つて乗り越えていきたいと思ひます。今まで支えてくださった先生方や仲間、家族や様々な人への恩返しを胸に自分らしく生きていきたいと思ひます。

treasure

4組 神原 二つこ

今までに経験したことになかった、マスク生活、ソーシャルディスタンス、オンライン授業。思い描いていた高校生活とは程遠い感覚でした。部活動、学校行事、友達との距離感……。色々な事が変わっていくんだと感じた高校一年目でした。

この生活がずっと続いた訳ではなく、徐々に生活していく上での規制も緩和されていきました。体育会は高校3年間行っていたことができ、修学旅行も一日に短縮されたけれど学年全員で県外へ行きました。沢山の思い出ができ、友達との関わりの大切さをより実感することができました。部活動では、年に一度ある定期演奏会を私達の最後の舞台として開催できました。演奏できること、多くの観客の方々に拍手をいただくことの幸せを今まで以上に感じました。

これら全ての基盤となるのが、私の中

充実した学園生活

6組 横田 星八

「第一志望の学校ではないかもしれないが、卒業する頃には『金光学園で良かった』と思つてもらえるはずだから、安心してください。」

高校受験が終わわり、最初の出校日に校長先生にかけてもらった言葉だ。それから3年が経ち、振り返ってみるとその言葉は実現した。

僕はバスケット部に所属しており、同級生は自分を含め3人だった。コロナの影響で練習ができなかったこともあり、つまりくることがよくあった。ハードな練習と勉強との両立が大変で心が折れることもあった。そんな中、チームメイトの2人には何度も助けてもらった。誰かが困った時は互いに支え合い乗り越えてきた。練習で切磋琢磨したり、テスト週間は一緒に勉強したりもした。3年間の積み重ねが実り、県大会ベスト8という結果を残すことができた。一人では達成するのが難しくても、助け合い協力することで乗り越えることができると思ふ。一緒に頑張れる仲間がいたからこそバスケット部で成長できたと思ふ。3人で過ごす時間

では「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の合言葉です。現在の普通の生活を私達は当たり前前のことと思つてしまいがちですが、そのような時ほど、「たいせつ」にするべきことをただイメージするだけでなく行動に移し、金光学園の卒業生の一人として、人のお役に立てる人間になれたらと思ひます。

6年間の歩み

5組 黒住 彩羽

卒業を前に、お世話になった先生方や友人、6年間過ごした校舎との別れが迫っていることを寂しく思ひます。同時に、夢を実現するための新たな一歩を踏み出すことへの期待や喜びに胸を躍らせています。時には苦しんだり悩んだりすることもありましたが、たくさん友達と笑い合い、新しいことに挑戦し、少しずつですが成長し続けられた学園生活でした。

私は小学生の頃、学校という場所があまり好きではなく、長期的に休んでしまふこともありましたが、さすが、金光学園に入学した時、今まで私が過ごしてきた世界はとても小さかったのだと驚かされました。6歳も年上の先輩方が同じ部活

は本当に楽しかった。また、部活動以外でも目標に向かって頑張れる仲間ができた。2年から特進クラスに編入し、課題も多くなり苦労することがよくあった。クラスメイトと毎日朝早く一緒に登校して、勉強を教えるもらったり、問題を出し合ったりして力を伸ばしてきた。進路や夢について話したり、何でも相談したりできる友達もできた。他にも探究活動、ALTの先生方のおかげで将来挑戦したいことも見つかった。たくさんのお会いが僕の高校3年間を充実させてくれた。

大変なこと多かったが、やはり「金光学園で良かった」と胸を張れる。学園での経験を糧に未来に向かって頑張つていきたい。両親、先生方をはじめとする、たくさんの方々をサポートしていただいた。携わっていただき本当にありがとうございました。

卒業を前に思うこと

7組 江尻 圭吾

まず、6年間金光学園に通わせてくれた両親にありがとうございますと伝えたいです。受験期には、私のわがままな

動にいたり、海外から留学してきた方もいたり、新しいことだらけでした。友人ができ、美術部と新聞部に所属し、入校時合宿をはじめとした様々な行事に参加して、毎日多くのことに夢中になっていくうちに学校という場所が好きになっていきました。勇気を出して新しいことに挑戦し、成功であっても、失敗であっても、一つ一つを自分の中で消化し、養分にしてまた新しいことに挑戦できる。私の背中を押してくれる先生方や友人がいる。私にとつて金光学園はそんな場所でした。そして、いつか私も、子ども達がしたいこと、叶えたいことを実現できるように、ほんの少しだけ背中を押してあげられるような先生になりたいという夢ができました。

6年前のように、今年は私にとつて環境が大きく変わる人生の節目だと思ひます。先生方や友人には本当にお世話になりました。家族には引き続き温かい目で見守つてほしいです。次に金光学園を訪れる時は今よりもっと成長した自分でありたいように。6年間本当にありがとうございました。

頼みも嫌な顔一つせずに聞き入れてくれました。言葉で表せない程感謝しているので、これからの行動で示していきたいです。金光学園に入学して6年間、楽しかったこともあれば、辛かったこともありましたが、今ではすべていい思い出であり、大きく成長できたと思ひます。特に、高校3年間はとても濃く、笑いあり涙ありの3年間だったと思ひます。楽しかったことといえば、昼休みの何気ない友達との会話でした。金光学園には、ほつま祭や体育会をはじめとした様々な行事があり、それらも最高の思い出ですが、私にとつては昼休みに話したアホな会話の方が何倍も楽しかったです。特に、理想のカップルの会話を一人二役でコントシあつた事は最高に楽しかったです。これを読んでいる後輩君たちは、ぜひやって見て下さい。

辛かったことは、受験1ヶ月前に気胸になったことです。私は、高校1年時にも気胸になり手術をしました。気胸は別名イケメン病と呼ばれており、あまり悪い気分にはなりませんでしたが、3年時に医者に言われた時はショックと不安で

2日間寝られませんでした。しかし、そんな時、担任の先生や友達たちからのメッセージが支えになりました。予定通り退院もでき、受験も勢いで乗り越えることができました。自分自身の受験の準備で一杯のはずなのに、メッセージをくれた友達には感謝しかありません。一生大切にしたいです。

最後に、私はこれから夢を掴むために大学生になります。夢を実現するまでの道は険しいかもしれませんが、金光学園での経験を糧にして、夢を掴み、立派な人間になりたいです。

保護者

夢に向かつて

1組保護者 堤 朋恵

中学校入学式の日、娘は不安な表情を浮かべていました。けれど、入学後すぐに友達ができて名前を覚えてくれた時のさわやかな笑顔を、つい昨日のこのように懐かしく思い出します。仲良くなった友達に誘われて韓国や台湾研修に参加し、自分の世界をだんだんと広げていきました。海外研修では英語を学ぶだけで

なく、友達と一緒に行動する中で絆もさらに深めることができ、貴重な体験となりました。

初めての中間考査で良い成績をとったことがきっかけで自信が付き、早々に志望大学を決めてしまいました。あまりに無謀で、最初は冗談半分で言っているとは思えませんでした。高校生になってもその夢を追い続け、見えないところで自分なりに考えて行動し努力していました。普段机に向かう姿をあまり見たことがありませんでしたが、夜中に部屋の灯りがついていたのでそっと覗くと、集中して勉強している娘の後ろ姿が見え、びっくりしたことは今でも忘れられません。そんな娘の姿を見て、人は環境によって変わるのだということを改めて感じました。

先生方には、多感な時期の中学・高校時代に、学園でしか味わうことのできない探究活動、ほつま祭や体育会などの多くの経験をさせていただいたことに、深く感謝しております。そして何より、いづも子どもの味方でいてくださいました。娘は普段から「先生って優しいんですよ」と口癖のようにつぶやいていました。将

なことの一つです。

6年間の学園生活の中で夢を抱き、先生方の支えのもとそれを実現できたことは、私たち親子にとって人生の素敵な贈り物です。「未来は自分が決める」「やればできる」と信じ、努力すれば一つ一つ叶えていくことができると実感した瞬間でもありました。

学園生活で得た知識と経験を生かし、これからもさらなる夢に向かつてはばたいてくれることと信じています。

「人をたいせつに自分をたいせつに物をたいせつに」の合言葉を忘れず、今後とも困難に負けず夢に向かつてさらに努力して欲しいと願っています。

勉学だけでなく、人として本当に大切なことを教養育ててくださった先生方には、心から感謝いたしております。

6年間、本当にありがとうございました。

部活動を通じた色々な出会いに感謝

2組保護者 藤本 浩司

長男も含め12年間お世話になった金光学園を次男が卒業することで、日々寂しさが募っております。そして、息子2人共が野球部に入部することになりました。

次男はコロナ禍でのスタート。初めての自宅でオンライン授業や練習の自粛など今までは考えられない程の制約となりました。保護者会もなかなか全体での会が開催できず親睦も図れないままの観戦となっていました。2年生になり遠征にも行けない日々。部員達はもちろんのこと、監督、部長、スタッフの方々には練習試合の相手を探するなど大変な苦勞を重ねてくださったと感じています。2年生の保護者が中心となって短期間で作った鶴文字。瞬く間にデザインや図面が出来上がりました。場所を提供してくださいたり急な作業日の招集にも関わらず参加してくださいたり協力的な方が多く、完成までの約1カ月間、毎週土日に顔を合わせて作製した時間はとても楽しく思い出に残っています。3年生になりやっと出来るようになった遠征の際には、日ごろの子供たちの話題だけではなく楽しく情報交換をして、保護者も部員同様に一緒に時間を過ごしました。全力プレーの部員たちの応援に保護者会も「一心」を掲げ、最後の夏大会はキャプテンの飯田君の選手宣誓で始まり、親子一体となって戦いました。次男は、自分がどうすれ



来の夢や勉強の仕方などで悩んでいる時は相談にのってください、迷い立ち止まっている時は愛情を持って背中を押してください、いづも夢への道しるべとなり温かく見守ってくださいました。守られているという安心感からか、時には厳しい親の言動からの逃げ道となって先生方を頼ることもありました。ひとりでは生きていけない！周囲の支えがあつてこそ！ということも学園生活の中で学んだ大切な

ベストパフォーマンスが出来るのか模索する中で、いつもの仲間がライバルでもある苦悩から何度も心折れそうになりましたが、同級生や後輩の皆さんに絶妙なタイミングで励まされ、中学野球部からの顧問の先生方やスタッフの皆さんも度々話をしてください、苦しい時を何とか乗り越えることが出来ました。そして保護者会長としても務めさせていただきました。不甲斐ないことも多かったと思いますが、完璧なコントロールで保護者会活動を盛り上げて部員達のサポートが出来るようにしてください。また役員の方々が、そして率先してアイデアを下さらずと協力的でいてくださった保護者会の皆さまのおかげで何事もスムーズに出来たことに深く感謝しております。今後、部員達は、別々の道に進みますが、金光学園第75期の保護者会は永遠に不滅です。高田監督をはじめ、平賀野球部長やスタッフの皆さま本当にありがとうございました。

14年間を振り返って

3組保護者 中村 教代

「あのお姉ちゃんの着ている制服かわいい、私もあの制服の中学校に行きたい」

弟の私立小学校の運動会を見に行っていた長女の言葉。そしてオープンスクールに行き、学園の教育方針、生徒の明るさ、礼儀正しさに感動し御縁をいただきました。

しかし、岡山市から通うというスタートに親としては不安もありましたが、長女はその不安を吹っ飛ばすかのように毎日元気に楽しく通ってくれました。学校から帰れば楽しかった事、嫌だったことなど学園での事を何でも話してくれました。そして学園生活の中で、自分の夢について考え、中学3年の時に小学校から始めていたゴルフをもっとがんばりたいという目標を見つけました。娘にとって学園での生活は、楽しいだけでなく自身自身の事を考える力をつけてくれました。そして、長男、次男、三男も「学園に行きたい」と言ってくれ、私はすごく嬉しかったことを覚えています。

3人共中学ではボーイズリーグで野球をがんばり、学園では数々の経験、友人との思い出、充実した日々を過ごすことが出来ました。

高校からは、野球部に入学しました。
長男：クラス、野球部で高田先生をは

じめ支えていただいた先生方、良き仲間
に恵まれ、卒業した今でも交流が続いて
いる親友が出来ました。

次男：野球部では良き先輩、仲間
に恵まれ高2高3の時、県ベスト4までいく
ことが出来ました。しかし高3の時にコ
ロナ禍により甲子園の夢がたれ辛い思
いをしたと思います。

三男：高校生活スタートからコロナ禍
で、行事の中止、縮小、勉強、野球が思
うように出来ず我慢の高校生活だったか
もしれません。でも最後まで諦めずがん
ばった事はこれからの人生必ずプラスに
なると思います。

最後に子供達の「学園に行つて良かつ
た」の言葉、学園の保護者になれたこと、
すべて校長先生をはじめとする先生方、
食堂の方々、すばらしい仲間、保護者の
方々のおかげだと思っております。心よ
り感謝申しあげます。

野球部マネージャーをさせていた だき得たこと

4組保護者 伊藤 直美

長女は中学から、この度卒業する次女
は高校から金光学園に入学して二人あわ

交流に、羨ましくもあり、次女も卒業し
てからこのような機会があるのかなと思っ
てみたりしています。

長女・次女あわせて9年間、金光学園
には大変お世話になりました。最後にな
りました、金光学園の今後益々のご発
展をお祈りいたします。

友だち、先生に感謝

5組保護者 坂本 優子

コロナ禍で学園に入学してからあつと
いう間の3年間、友だちや先生に恵まれ
支えられ、充実した学園生活を送るこ
とができました。

入学式の後、すぐにオンライン授業に
なり、スタートから不安な高校生活でし
たが、6月から登校、すぐに友だちもで
きました。担任の先生だけでなくたくさ
んの先生に声をかけていただき楽しい学
園生活が始まりました。娘の目指す方向
性が決まりつつある中、同じ方向に進ん
だ卒業生と繋いでもらい、大学受験に向
けて早い段階で動くことができました。

コロナ禍で留学が難しいご時世ではあ
りましたが、高校2年生でトビタテ留学
JAPANに合格し、娘は留学したいと

せて9年間お世話になりました。3年前
「お姉ちゃんと同じ野球部に入ってマネー
ジャーがしたい」と次女が言ってから月
日はあつという間に経ちました。長女が
野球部のマネージャーをしていた当時、
朝早く家を出て夜遅くまで練習にまた試
合にと過ごしていて、これはまた大変な
日々がやってくるなと思ひ出しました。

入学してしばらくはコロナの影響で部
活がなく、家でオンライン授業をして過
ごしていましたが、しばらくすると部活
動ができるようになりました。次女は初
めてのマネージャー、できるかどうか不
安でしたが、同学年のマネージャーがい
てくれたおかげで無事に参加できるこ
とができ安堵しました。しばらくすると練
習試合にも行くこととなり、長女の時と
同じように朝早くから学校に行く日々が
始まりました。不慣れなので監督をはじ
め選手、保護者の方々には色々ご迷惑を
おかけしたかと思ひます。皆様に支えて
いただいたことに感謝申し上げます。

ちなみに長女はというと、金光学園を
卒業してからも野球部有志で集まり、野
球をしたり食事をしたりと楽しいひと時
を過ごしています。卒業してからも続く

の気持ちでいっぱいです。「人をたいせ
つに 自分をたいせつに 物をたいせつ
に」の学園精神を大切に、今後も一歩
一歩、前を向いて歩んで欲しいです。

金光学園だからこそ得られた経験

6組保護者 平井 利幸

次男の小さな手をつなぎ毎日保育所に
送り迎えをしていたあの頃、とても甘え
ん坊で、いつまで経っても一人では何も
出来ないことが心配でした。しっかりと
た性格の兄に対し、次男は真逆の楽天的
で余りしゃべらない、のんびりとした性
格だったので何をするにも心配でしたが、
いつもニコニコとした笑顔で何となく物
事を乗り越えられる不思議な子供でした。兄
が入学した金光学園の充実した学園生活
を聞く内に、中学は金光学園に進学した
いと思うようになり、後を追うように金
光学園に入学させて頂きました。

学園生活では外国の方と仲良くする機
会もあり、勉強以外に精神面や規律面
のご指導をいただきコロナ禍ではあり
ましたが充実した6年に感じます。学園
での勉強面でもそうですが何より心の成
長の取り組みが素晴らしく、友達と楽し

そうに話している姿や外国の先生との交流も素敵な経験だったと思います。また嬉しいことに身長も伸び続けついに父の背丈も超えていきました。

去年の夏、仕事中偶然駅から帰宅している次男を見かけました。背筋を伸ばし真つすぐ前を向き風を切って歩くその姿は幼い頃泣き虫だった甘えん坊とは思えない立派な青年でした。その時、金光学園での生活は間違いではなかったと思う気持ちと学園の方々への感謝の気持ちが



卒業生保護者代表 記念品贈与

溢れ、それと共にこの子の親である事に誇りと嬉しさがこみあげ、これからも後悔のない沢山の愛情を注ぎ続けていきたいと思います。

大学も決まり春からは一人暮らし。またまた心配ですが、早く親の方が子離れをしないといけないようですね。最後に保護者として未熟だった部分を補いご指導くださった先生方、息子を支えてくださった友人のみなさん、ありがとうございます。子供と共に親として勉強と成長をさせて頂きました。金光学園の皆様、本当にありがとうございます。

卒業を前に6年間を振り返って

7組保護者 長尾 貴幸

子供たちの卒業を控え片付けを行っていると懐かしいものが出てきました。金光学園中学校の入学試験結果通知書です。早いものでもう6年の月日が経過したのかと感慨深いものを感じます。小学校6年生の夏休みに急に双子の息子達から金光学園に行きたいと言われた時には驚いたと同時に合格できるかなと不安に感じたものです。

入学してからはいろいろなことがあり

ました。2018年7月には西日本豪雨災害が発生、中国地方に甚大な被害をもたらし我が家も全壊する被害に直面しました。夏の暑い最中に校長先生自ら自宅まで慰問に来てくださったことはうれしく感じましたし、子供達のために学園全体でサポートしていただき感謝の言葉もありません。新型コロナウィルスが発生して以降生活スタイルは大きく変わり、高校の修学旅行の中止等子供達にとっては我慢の高校生活だったと思います。そのような中でも学校に行くことが楽しく6年間一度も行きたくないと言わなかったことは、先生方、良き友人に恵まれ本当に良い学校だったのだと感じる次第です。

長い人生の中の最も多感な時期を金光学園で過ごせたことは、息子達にとっても貴重な時間であり、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」の学園の合言葉を胸にこれからも大きく成長して行ってくればと思います。最後になりましたが、校長先生をはじめ担任の先生、諸先生方には大変お世話になりました。ありがとうございます。金光学園のますますのご発展をお祈りいたします。



道

(34)

金光 道晴

「劇団四季」越智幸紀専務(昭61年卒)による 中3東京研修事前学習としての講演

2月15日(土)18日に中学3年生はオーストラリアアグロバル研修の代替行事としての東京研修が3泊4日で行われました。最初の2日間は東京グローバルゲットウェイでのグローバル研修を中心に、3日目はデイズニージー、最終日は東京スカイツリーや浅草の見学の後、「劇団四季」の「ライオンキング」を鑑賞しました。「劇団四季」には学園の卒業生(越智幸紀専務、昭61年、高38回卒)がいるので、事前学習として生徒に話をして頂きたいとお願いしましたところ、ちょうど九州出張があるので、快く受けて頂き、2月8日の6時間目をお願いすることができました。その講演は保護者の方にも、教職員にも聞いて欲しいと思っていました。コロナ禍の中で、多くの方に聞いて頂くことはできないので残念でした。しかし、素晴らしいお話でしたので、その一部をこの「やつなみ『道』」に紹介させて頂くことにしました。



越智幸紀氏

「講演内容」

只今紹介に預かりました、劇団四季の越智幸紀と申します。この度は私の母校、金光学園の生徒さんのお話する機会をいただき、大変光栄に存じます。ありがとうございます。私は愛媛県の今治市の出身です。中学までは地元公立中学に通っていましたが、高校進学で金光学園に入りました。越境進学でしたので寄宿舎に入りました。その後、学園から上智大学に進学し、卒業後、劇団四季に入団しました。

高校進学後、同じ中学から来ている友人もいなかったのと、方言の壁でなかなか同級生たちとも打ち解けられずいたところ、国語教科担当でもあった担任の先生が、私に「秋の学芸会の劇の台本を書いてみないか」と声を掛けてくれました。あとで思えば、クラスに打ち解けられなかった私に活躍の場をくださったのだと思います。それから夏休みも実家に帰らず寄宿舎にこもって台本を書き続け、出来上がった作品をその先生に見ていただいたところ、すごくほめてくださったことから演劇に興味を持ち、大学に進学してから演劇サークルに入り、結果、それが今の仕事につながっています。

東京に出て、初めて劇団四季の舞台を観て衝撃を受けました。「夢から醒めた夢」という赤川次郎さん原作の作品でしたが、ミュージカルというものを観たのもそれが初めてで、その舞台のすばらしさ、作品の持つメッセージに感動し、涙しました。そして、周りの方皆さんが、うれしそうに表情で劇場を出ていく様子を目の当たりにし、人を感動させ、喜んでもらう、こんなに素晴らしい仕事があるんだと思いました。それから

劇団四季で働きたいと思うようになり、制作サイドの入団試験を受け、何とか潜り込むことができ、今もこうして劇団四季で働いています。

地元、今治市の高校に通っていたら、または、金光学園で1年の時の担任の先生に出会っていなかったら、私は今の仕事にはたどり着かなかったと思います。その先生と金光学園には今でも感謝の気持ちでいっぱいです。このように、人は様々な出会いによって人生が左右されることがあります。舞台もまた同じで、いい舞台に出会って、それからの人生観が変わる場合があります。私にとっては劇団四季の「夢から醒めた夢」がそうでした。

中3の皆さんは来週の東京研修で『ライオンキング』をご覧いただくことで、皆さんの人生にも、何らかのよい影響や変化があればうれしく思います。

では、本題に移りたいと思います。本日お話しする内容は、①劇団四季とはどういうところか、
②『ライオンキング』の見どころ、
③人に喜ばれる仕事とは、
の3つです。(①～③の内容は紙面の関係で、ここでは省略させていただきます。)

ここまで①～③の話を聞いて頂いて『ライオンキング』を観るのが少しでも楽しみななってくれたらうれしいです。

さて、最後になりますが、皆さんも将来、どんな仕事に就こうかなんてことを考え始めたりする頃かと思えます。ここでは、私からは劇団四季で働くということの一部をご紹介します。

導犬を連れて来場したいお客様がいると主催者より連絡が入りました。弊社の公演では、通常盲導犬の来場も可能という旨を、お話し。周りのお客様の配慮も考え、犬アレルギーなど出た場合の対応も考えました。

当日は、盲導犬と男性の方お一人でご来場され、大きな音が出る場面もあり心配しましたが、盲導犬もおとなしく、一番最後に客席からアテンドしご退場。とても楽しんでお帰りになりました。

それから約1年後の2016年『ウェストサイド物語』福島公演で、再びその男性の方が盲導犬と一緒にお越しになりました。双方、記憶にあり「昨年もご来場いただきましたよね?今年もありがとうございます!」とお声をかけると、「去年、勇気を出して来てみてよかったです。目が見えないし、この子(盲導犬)を連れて行ったら他のお客様さんにも、係の方にも迷惑かもしれないと、いままですと我慢していました。皆さんが親切に対応してくださり、今年もこの子と出かけようと思ったんです。(目は見えませんが)あの時の方ですよね?わかります。今日もずっと楽しみにしていましたよ。(目が見えなくても)観たいと思う方っていっぱいいるんですよ。」とお声を頂きました。

昨年は、四季スタッフとして当たり前前の行動をした、ただそれだけのつもりで、特別な対応をしたとも感じていませんでしたが、お客様にとっては、ほんの些細なことでも勇気づけられることがあるのだと、作品だけで劇場に足を運んでもらえているわけではないと改めて気づかされた時間でした。

たいと思います。ライブエンタメという業種について少しでも参考になればと思います。

劇団四季は日本生産性本部でエンターテインメント部門の顧客満足調査が始まった2010年から常に上位にランキングしています。この高い顧客満足度を支えているものの、それはもちろんクオリティの高い作品を上演し、舞台成果でお客様にご満足いただくことが基本

本ではありますが、私は、それを支えるスタッフはお客様とどう向き合っているのかを知りたいと思います、「お客様に喜んでもらった経験」を社員みんなにメールで募ったところ200件を超える返答がありました。今日はその中でいくつかのケースを紹介したいと思います。働いている人たちの声に耳を傾けてみると、仕事のやる気を高めているのは、お客様に喜んでもらった出来事から起こることということがよくわかりました。

(1) お客様から観劇の勇気をもたらったと感謝された話
2015年『クレイジー・フォー・ユー』福島公演前に盲

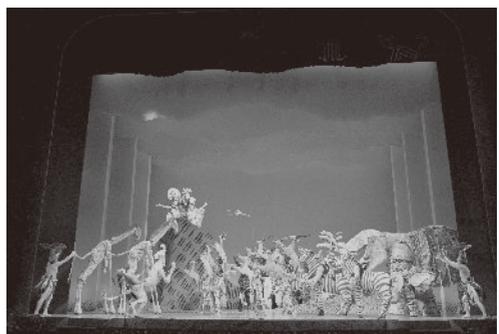
お仕事中、と書かれた盲導犬が、また男性と来て下さることを私も楽しみにしていきたいと思えます。

(2) 夢だった観劇の実現をお手伝いさせていただき感謝された話。

『ライオンキング』公演中の事です。車椅子での来場したいお客様からの問い合わせがありました。空席状況を確認しつつ、車椅子での観劇の方の詳細を伺うと、ストレッチャータイプ(寝たきりの状態)で、お嬢様が寝たきりの状態で、呼吸器などを付けて生活をなさっているとの事でした。また、車椅子の大きさを伺うと、車椅子がストレッチャータイプの為、劇場内のエレベーターでは、奥行きが足りず、乗れないことがわかりました。

予約を取る前に、劇場下見に来ていただく事を提案しました。ご両親が車椅子を持参して、確認に来られました。下見したら、劇場のエレベーターに車いすが乗らず、結果、『ライオンキング』のご観劇の1日の為に、車椅子の足元を折りたたみできるように車いすを改良される事になりました。費用は30万円くらいかかったそうです。その後、ご観劇の日を決めて、予約を取りました。当時は残席がありませんでしたので、約半年後のご来場となりました。

やっとご観劇当日になり、施設から外出許可を取り劇場に向かいましたが、生まれて初めてのご観劇とあって、劇場に近づくにつれて、興奮を抑えきれず、呼吸が荒くなり、心拍数も基準値を超え、呼吸器から警音音が鳴り、非常事態となっ



©Disney / 撮影: 上原タカシ

た為、あえなく施設に引き返す事になりました。その後、2回目もご観劇叶わず、3回目の予約で、やっと劇場もぎり口までたどり着きました。しかし、もぎり口を通ろうとした時、またここでも呼吸が荒くなり警告音がなった為、一旦落ち着くまでロビーで待ちました。やっとの思いで客席に入れたのは、一幕終盤からでした。その後、終始穏やかな様子で、終演まで呼吸器からは一切警告音はならず、舞台を客席で楽しんでいただけました。

お帰りの際に、私に向かつて寝たきりのお嬢様より「ありがとう」と声を絞り出して言ってくださって、とても喜んでいただけただようので、初めての問い合わせから約1年8ヶ月経ってありがとうございましたので感無量でした。また、このご家族の思い出になれる機会のお手伝いが出来た事をうれしく感じました。

(3) 番組を通して、親子の絆が深まったと感謝していただく話。

私たちの劇団は「演劇を通して、人生の素晴らしさや生きる喜び」を伝えていきます。広報は、直接お目にかかることのできない視聴者に対して、番組や紙面を通して「観たい」気持ちをくすぐるお仕事なので、直に反応を感じられる機会は少ないのですが、そんな中で忘れられない取材がありました。

2013年の『サウンド・オブ・ミュージック』名古屋公演。NHKに子役密着を提案し、実施が決定。密着候補のことも志望動機(作文)をリクエストされました。読んでみると、そこには「わたしの父は体が動かない病気で。たくさんのは息を引き取られました。棺にはSOMのプログラムを納めてもらいました。今でも天国で応援してくださっていると思います。」

(4) 息子を元気づけてもらったと感謝された話

今回の出来事は、昨年の夏に劇団にお母さんが送ってくれたメッセージから始まりました。Y君は、心臓の病気を患い大きな手術を繰り返す日々で体には色々な障害も残っている、そんな彼の心のよりどころが『ギヤツ』であり、また元気になって観に行きたいというメッセージが送られてきました。このメッセージを受け、私から手紙を送りお母さんとのメールのやりとりがスタートし、症状が少し落ち着いたら先日14歳の誕生日に大阪まで家族で来場していたという経緯になります。俳優にも少し経緯を話しサプライズで終演後に面会もしていただきました。その後、お母様からお礼のお手紙をいただきました。

(お手紙紹介／一部抜粋) 月曜日の朝、学校に仕事にと日常に戻ってきました。でも、土曜日の出来事を思うたびに、なんだかまだ夢のような気がして、4人でふわふわにやにやにしております。あの子にとっても、姉にとっても、今回のことは、本当に何にもかえられないプレゼントになりました。そして、サプライズしたはずの私にとっても、感涙の思い出となりました。手術や過酷な治療入院の際、「ママ、これがんばったらもうおしまいだよね?」と聞かれるたびに、完治がないこの

人たちに支えられて生きています。なので、わたしが四季の舞台に立って頑張っている姿を見てもらい、父にもがんばろうと思っしてほしいからです。」と書いてありました。彼女の父親はALSという難病だったのです。

普段の基礎稽古から、あざみ野での稽古と、カメラは開幕直前まで、彼女と父の姿を追いかけました。15分という長尺の特集。放送後、お父様に会いに行きました。「体が動かないから、家にいる時の娘の顔しか見ることができません。番組を通して、いろんな娘の姿を観られて、授業参観に参加できない自分に神様のご褒美をくれたのかな。」声を発することができないため、文字盤を視線で追って一言ひとこと想いを伝えてくれました。

NHKには激励のメッセージがかつてないほど寄せられたそうです。社内評判もあいまって、ドキュメンタリー番組になることが決まりました。すべての放送が終わったあと、お父様からメールをいただきました。「娘と会話をすることが、殆ど皆無となつてから、相当な時間が経ちました。娘が本当は私の病気の事をどのように思っているのか判り、また、私の知らない一面を垣間見る事が出来、本当に感謝しております。」

番組を通して、視聴者やお客様に作品の魅力だけでなく、作品のメッセージにも共通する「親子の絆」を届けることができた実りある取材でした。また同時に、視聴者にいろいろなメッセージを届けられる広報という仕事にやりがいを見いだせたお仕事でもありました。2015年10月8日、お父様

重複障害を抱えた息子に「ここをがんばったら、もう元気、入院しないよ」と言っただけでいい私です。入院中もいつも天使な息子ですが、治療が過酷になる時には、「どうして、僕ばかりいつもこんななの!」と泣き叫ぶこともありました。そんな時も、「ごめんね、ごめんね。」と言うことしかできない私です。でも今回、初めてあの子たちに迷いなくしっかりと伝えました。「がんばったら、やっぱりいいことちゃんとおつたね」と。普通のお母さんたちが、日常普通に使っているフレーズなのだと思います。帰り道、息子が自然に姉の手をつかみ、姉がその手を握り、二人で歩いていました。何年振りに見る光景なのかと、やっぱり涙がとまらなくなつた母でした。あの日の思い出をこれからも私たちの支えにしていきたいと思っと思っています。

これらの社員の「心の支え」の事例をもつて、私から出張授業を終わらせていただきます。ご清聴、ありがとうございました。うございました。



撮影：荒井 健

活躍おめでとう

《中学男子バレーボール部》

中国新人大会に出場

中1 松井 悠陽

中国大会は中国各県のトップのチームが集まっていた。僕は2度目の経験だったのに良い結果を出せず悔しい結果に終わり、多くの反省点があったが、夏の中国大会より良かったところもある。中国大会ほどの大きな試合になってくると、たった1本のスパイクやブロック、サーブ、レシーブなどのミスがとて命取りになることを、改めて実感した。夏の中国大会のとき僕はとても緊張していて、あまり良い動きができなかった。



しかし、今回の中国大会はいつも通りのプレーができたのではないかと思っている。だが、まだサーブをアウトにしてみたり、ブロックアウトを取られてしまったりと未熟なところがまだまだ沢山あるのでそういうところをこれから練習で直していきたい。また、初日からチー

《高校卓球部》

中国高等学校選抜卓球大会に出場して

高2 山本 晃成

私達、高校卓球部は12月16日から18日まで鳥根県で開催された中国大会に出場した。予選リーグでは太田高校に3対2で勝利し、シード校の鳥取敬愛高校が棄権したため予選リーグを1位で通過した。決勝リーグでは1勝6敗という成績で、あと1勝で全国選抜大会の出場を逃した。私がこの中国大会で感じた強豪校との大きさ差は、練習時の集中力の差である。この大会で上位6位に入り全国大会への出場を決めた高校は練習中は必要以外の

《高校少林寺拳法部》

中国高等学校少林寺拳法新人大会・男子単独演武の部 優勝

話はせず、かつ長時間の練習を続けていた。そこがこれからの自分達の課題であり、あと一步全国に届かなかった原因だと改めて痛感した。

これからはこの悔しさを忘れず、今回の決勝リーグ敗退が有益なものになるように、努力を積み重ねていきたいと思う。



《高校少林寺拳法部》

中国高等学校少林寺拳法新人大会・男子単独演武の部 優勝

優勝

中国新人大会に出場して

高2 原田 大地

私は広島県で行われた第四回中国高等学校少林寺拳法新人大会に出場した。今大会では、中国地方の各県大会で6位以内に入賞した者が競い合った。私は、男子単独演武の部に出場し、これまでの目



《将棋部》

おそらく将棋部久しぶりであろう中国大会

高2 仕田原 良

僕は10月1日に山陽新聞社で行われた中国大会につながる将棋秋季大会で7位入賞し、12月16、17日に岡山で行われた中国大会に出場することができました。結果は32人中の10位で微妙な順位でしたがとても楽しく課題も見つかるような2日間でした。今回は部員一人しか行けなかったのですが、来年度はほかの部員にも頑張ってもらいます。中国大会に出場することができたのはいつも応援してくれる仲間たちのおかげです。皆には感謝しかありません。初めてで緊張も多かったですがとても楽しい中国大会でした。

好きなことを仕事に 考古学に魅せられて

公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センター 職員
佐藤 直人（高70回卒）



私は公益財団法人愛媛県埋蔵文化財センターで埋蔵文化財の調査や研究を行う仕事をしています。埋蔵文化財と聞いて何のことかわかりますか？ 埋蔵文化財とは土地や水面下に埋蔵されている遺跡

や遺物のことを指します。人が生活するために築いた建物や川から水を引くために掘った溝・井戸などは遺構、日常生活で使った土器や狩猟に使った矢じりや石鏃などは遺物と分けられます。この遺構の集合体を遺跡と呼びます。

また、私が従事している仕事の大部分である発掘調査は大きく分けて2種類あります。1つ目は記録保存調査というものです。これは、ある土地に建物や道路を作る際に、その地下に埋蔵されている可能性のある遺跡の現状保存が難しく、やむを得ず破壊されるときに、その遺跡の情報を主に写真や図面で余すことなく記録に残すことを目的とされている調査

です。2つ目は保存目的の調査というものです。これは、遺跡を保護や整備することを目的としており、遺跡の範囲や内容を確認するために行われます。そのため、必要以上の調査を行って遺跡を破壊しないように気を付けなくてはなりません。

○遺跡公園などと書かれている遺跡は保存目的の調査を行って整備した遺跡です。

私が今年度担当している調査は、愛媛県西条市（丹原）で北竹ノ下遺跡Iという弥生時代の集落遺跡の発掘調査です。

この遺跡の調査面積は約70㎡と狭い範囲ではあるものの、堅穴建物跡7棟、土器棺（子供の棺）2基を検出しました。このような狭い範囲から密度の高い遺構や遺物が検出することは珍しく、場所にもよりますが1000㎡調査しても検出しないこともあります。

このように今まで発見されてなかった重要な遺跡の調査に携わったり、時には世紀の大発見に遭遇する可能性がある仕事をしていることは、とても楽しくやりがいがあります。

私がこの仕事を目指すきっかけになったのは小学6年の頃に地元で父やその仲間達と古墳を発見したことです。もっ

とあるのではないかと思いついた。古墳の分布調査を高校2年までの約7年間続けた結果、西日本の近畿以西では最大規模の古墳群であることが明らかとなりました。その後も古墳群の整備・周知活動などが地元「福山のブランド」に認定され、県内外から数多くの人が古墳群を訪れるようになりました。

金光学園に在籍した時は、中学の3年間は古墳の活動や部活動に打ち込み楽しく充実した時間を過ごしていました。しかし、高校に進級した年に家の事情で学校に行きづらくなり、高校2年でも欠席が多く、心機一転頑張ろうと覚悟を決めて進んだ高校3年でも友人とのトラブルで欠席が多くなった時期があり、正直に言う辛い思い出も多くあります。しかし、金光学園の先生方に支えていただきました。生徒の興味を強みにして大学進学に役立てようと、歴史研究同好会の活動を共にしてくださいました先生もおられます。私以外にも数人の歴史好きの仲間と学外で古墳の測量調査に参加したり、ほつま祭での展示活動を行いました。ほつま祭の展示物制作では、開催日前日の夜遅くまで部外の先生方も一緒に製作し

たのを覚えています。本当にたくさんの方のおかげで成り立っていた活動だと今更ながら気づかされます。

高校3年時の欠席が多かった時には、担任の先生が仕事終わりに私の家まで駆けつけてくださり、解決に向けて親身になって話をしてくださいました。社会人になった今、当時以上に先生方の支援に感謝の気持ちがいっぱいと湧いてきます。金光学園に入学していなかったら今の私はいないといっても過言ではありません。

学業面は芳しくありませんでしたが大学に進学し、歴史の専門的な学びをしたと思うようになっていました。高校3年の夏休みはオープンキャンパスで奈良大学を見学しました。奈良大学には文学部に史学科と文化財学科があり、歴史学と文化財学の違いを知り、私が学びたい考古学は文化財学科だということを知りました。実際に行くまで詳しい違いを理解していなかったのいい機会になりました。進学するにあたって、先生から成績に左右されない自己推薦入試があると教えていただき、これまでの活動を活かして大学に進学できることになりました。

大学に入学し、1・2年の間は、考古



学・文献史学・世界遺産学など、幅広い文化財の基礎知識を学んだり学外授業で実際に見たり触れる体験をしました。それと同時に大学の教授に紹介していたので、発掘調査のアルバイトに参加して授業や本だけでは学べない考古学の知識を蓄えることができました。また、クラブ活動は考古学研究会に入部していました。活動は、各時代ごとの土器を製作して古代人の生活を研究しました。実際に土器を作ることで観察力が養われました。

3年からはゼミが始まり、研究発表がありました。私は地元の研究がしたく、当時興味があった弥生時代の備讃瀬戸地

地域の地域間交流について研究しました。調べていくうちに他地域にはない特色があつて研究が楽しくなり、没頭しました。4年になると卒業論文の製作が始まり、私は3年から始めた研究を続けて書きました。考古学研究をするにあたって必ず



「現地現物」という言葉を言われます。これは自分の対象物を実際に見に行つて研究することです。私の研究対象は大学のある奈良から距離があり、とても大変でしたがやりがいもあり、実際に現物を観察することで納得する部分や新たな疑問も生まれ今後の研究課題ができました。

また、卒業論文と同時に就職活動も始まりました。私は大学の間に参加した発掘調査や調査研究をこれからも続けたいという思いがあつたため、主に発掘調査の仕事ができる自治体や調査研究機関の募集を探しました。秋ごろに愛媛県埋蔵文化財センターの募集を見つけ、試験を受けたところ、学生の間で発掘調査の経験が豊富であつたことが評価され内定をいただくことができました。経験や強みを持つておくことの大切さを感じました。

今では好きな仕事に就き、何の不自由もなく生活できていますが高校の頃の中にはこんな生活を想像することはできませんでした。ここまでこられたのは金光学園の先生方に支えていただいたことや心配してくれた友人・大学で出会つた恩師のおかげであり、また多くの人にもお世話になってきました。仕事柄人とかか



わることが多いのですが、すべては私の今後に活かされると思つて前向きにとらえて関係を大切に生活していきたいと思つています。また、大学から続けている地域の地域史研究も進め、考古学が地域の活性化のきっかけになればいいなと思つています。

やつなみ保護者会のページ

受け継がれる心遣い

高2保護者

「ご卒業される3年生の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませう。」

ご縁あつて高校から金光学園に入学させていだいてから、はや2年。中学を卒業して間もなく寮に引越し、朝は自分で起き、練習から帰つたら練習着を自分で洗い、干す寮生活が始まりました。長期休業中は食事が無いため自炊もしなくてはなりません。不安でいっぱいスタートでしたが、それを軽くしてくださいのが大谷寮で寮生活を共にする野球部の先輩方でした。

入寮して何日か経つた頃、当時の野球部の3年生が「明日の晩御飯は俺らが準備しちゃうから。」と声をかけてくださったそうです。練習が終わつて帰ると、先に帰つた先輩方が準備してくださつたのはフライパンで作つたキムチ鍋。ジュースやお菓子も。先輩と一緒に食べるの

と緊張もしていたそうですが、「1年だけで食べた片付けてフライパン返してくれたらええから。」1年生全員違う中学校からの進学のためお互いに遠慮しながらの生活でしたが、それを機に打ち解けたそうです。

何という心遣いのできる先輩方なのでしょう。残念ながらコロナ禍が続く中、寮でも感染防止のため黙食を行つており下に受け継ぐことができていませんが、こういった行動がとれるのも金光学園の「人をたいせつに自分をたいせつに物をたいせつに」という合言葉を生徒一人一人が実践している証であると実感した出来事でした。

卒業生の皆様にはこの合言葉を大切に受け継ぎ、それぞれが進まれた道で活躍されますことをお祈りします。

自らの人生を切り開く力

高2保護者

まずは今年ご卒業される3年生の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませう。

ご縁があつて息子が入学させて頂いてからすぐに、保護者の思いを記入するアンケートに「自らの人生を自分の力で切り開いていける人間になってほしい。」と書かせて頂きました。一度しかない人生を後悔なく、やってみたいことを見つけて行動し、歩んでいける力を高校生活で学び、身に付けてほしいという思いがあつたからです。

息子の高校生活を見てみると、友人と部活動に励んだり、行事に積極的に参加し、協力して発表を作りあげたりと充実している姿が見て取れ、青春を謳歌している様子が伝わります。そんな中でも探究授業との出会いは彼の人生に大きな影響を与えていると思つています。教育ゼミの

授業の中で様々な考え方や生き方を知り、級友の意見や自分の思いを重ねたり、比べながら、自分という人間を知ろうとしているようにも見えます。「自分は何なのか」「何がやりたいのか」「どうなりたいのか」「自分に何が必要なのか」17歳の息子が自問自答してもがきながら、前に進もうとしている姿に、今こそ「自らの人生を切り開く力」を身に付けていこうとされているのではないかと大変嬉しく、見守っているところです。また、授業の中で学んだ言葉「レジリエンス」は今後の人生でうまくいかず、壁にぶつかった時に、彼を救い助ける考え方となることでしょう。

先日、部活動主催の講演会で講師の先生が、一番大事なことは「アイデンティティー」(自分という存在を理解し、人生をどう生きたいかをつかんでいいる感覚)だとおっしゃっていました。まさしく今、その感覚を味わい、経験している息子にこのまま真っ直ぐに様々な経験と出会いを大切に人生を築いていってほしいと願ってやみません。

入学当初の願いを叶えるべく、心が成長しつつありますのも、金光学園の落ち着いた校風と、熱心で温かな先生方のご

指導の賜物と感謝しております。今後成長し、羽ばたく子供たちの姿を引き続き見守り、ご指導頂ければ幸いです。
ご卒業された3年生の皆様も、これからの人生を力強く切り開き、前進されまことを心より祈念いたしております。

「仲間」の存在

高2保護者
卒業される3年生の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

息子は高校からの入学で、勉強についていけるのか、良き仲間との出会いはあるのか、親としましては不安でしたが、入学式前に通ったスクーリングのおかげで友だちも出来、勉強への不安も和らぎ無事入学する事が出来ました。部活動も、入学前から練習に参加させて頂き、そこで良き先輩・良き仲間との出会いがありました。時にはライバルで時には良き相談相手で、一緒に勉強したり、部活の練習をしたり、息子の周りには本当に良き「仲間」がたくさんいます。心強い「仲間」です。一人では不安で押しつぶされそうな時でも仲間と一緒に乗り越えていきます。一人の時よりも何十倍も力が湧い

てきます。頑張れます。

卒業生の皆さん、金光学園で出会った仲間をこれからも大切にして下さい。高校生という多感な時期に、共に歩んだ仲間は一生の宝物です。これからも素敵な仲間との素敵な出会いが待っています。心弾ませながら新たな第一歩を踏み出して下さい。

これからの卒業生の皆様のご健康と益々のご活躍を心より祈願します。

変化と成長

高3保護者

6年前、顔見知りすら居ない中、息子が一人で不安そうに電車に乗って登校した日が、つい先日の様に思い出されます。ただ、その時には想像すらもない、息子がサッカー部に入り6年間も続ける事になろうとは、思ってもみませんでした。

ボールにすら殆ど触れた事もない息子が高校からはキャプテンを任せられました。それまでは楽しむサッカーだったのが少しずつ変わっていくのを感じました。朝は5時半に起き6時に家を出て朝練へ行く。コロナ禍の部活動制限時には各自オンラインで報告をし合い、ランニングを

行う。いつの間にか、

「キャプテンとして責任があるから」と話す様になりました。

最後の公式試合、足の不調から倒れそうになり反射的に相手を引っぱってしまい、レッドカードをもらいました。グラウンドから退場していく姿に心配をしましたが、本人は挫ける事なく冷静に受け止めていました。

試合後、保護者の前で挨拶をしました。試合結果と自分のプレーへの謝罪、応援への感謝、後輩への言葉を涙は見せずに伝えました。好きな事を続けて苦をも乗り越えていく過程にも成長を感じました。そして、これまでの成長は支えてくれた沢山の仲間やご指導下さった先生方のお陰でもあります。本当に感謝いたします。ありがとうございます。

教養部編集後記

中3保護者

卒業生の皆さん、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

ちょうど3年前、新型コロナウイルスという思いもよらないウイルスが流行し、世界中が混乱し始めました。あれから3年、

様々なことが変化しました。学園生活の中でも、ほつま祭・体育会が規模の縮小・制限をしておいた実施、年度によっては中止となる事もありました。しかし、そのような中でも、生徒の皆さんは、今、自分達にできる最大限の事は何か・今だからこそ取り組まなければいけない事は何かを仲間と一緒に真剣に考え、学園生活を充実させて来られたのではないかと思います。保護者として「大丈夫だろうか?」「無理なのではないか。」と感じた事も多々ありましたが、その不安と心配を皆さんは、きれいに吹き飛ばしてくれました。皆さんが、多くの学びを得る活動が出来たのも愛情や情熱を持って指導して下さいました先生方、毎日、優しく見守ってくれた保護者の方、そして外部、地域の方がいた事を忘れず、感謝の心も忘れないで下さい。学園で過ごした時間は、人生の中の大きな財産、困難を乗り越える力に必ずなると思います。皆さんには、輝かしい未来が待っています。いつもどんな時も応援しています。

保護者会活動については、様々な制限・規模縮小はありましたが、保護者の皆様のご協力により、昨年度よりも活動する

事ができ、感謝しています。ありがとうございます。

卒業生の皆様の輝かしい未来を心よりお祈り致します。そして、先生方、役員の皆様、保護者の皆様、ご協力頂き、本当にありがとうございます。

歴史ある金光学園のますますのご発展・ご活躍をお祈り致します。

会報

令和4年度3学期、新型コロナウイルス感染症の影響が次第に落ち着き、やつなみ保護者会の校内での活動は、感染対策をとった上で通常に近い形で進められていった。

手作り会とサークル活動 10月から庶務部を中心に後期の手作り会が始まった。また、サークル活動もコーラス・ハンドクラフト・パッチワーク・ステンドグラスが活動している。

第3回全役員会・第5回評議員会 2月21日(火)に第3回全役員会・第5回評議員会が開催された。主な報告事項は以下の通り。①令和4年度会計決算見込みについて。②友愛セール収益金について。③令和5年度会長・副会長・監事の選出について。④令和5年度の地区委員・評議員選出について。⑤第6回評議員会のご案内。⑥教職員外部診断に協力のお礼。

⑦令和5年度やつなみ保護者会総会について。⑧金光教春の大祭の接待奉仕について。次回3月25日(土)最終の評議員会で審議・議決を予定している。

諸会合

○1月18日岡山県幼小中高PTA連合会研修会。岡山シンフォニーホール。初村会長、岡田副会長、木村副会長、佐藤副会長、中桐副会長、橋本監事参加。

表紙の言葉

中1 山下 楽人

「窓あけて 窓いっぱい春」
春、窓を開けると暖かい日差し、穏やかな風、新芽や花々の香りを感じます。花たちが勢いよく咲き始め、人は胸が高鳴り希望に満ちあふれます。
この句を読んで、希望に燃える新たなスタートを、舞う桜が祝福してくれる情景が思い浮かびました。

版画を彫るときは、桜の花の咲き方と先割れを表現し、配置は咲き誇るように意識しました。また、窓枠を太くし遠近感を出し「窓いっぱい春」を感じられるように工夫しました。

季節は巡りまた新しい春が必ず来ます。昨年の自分よりさらに大きな希望を持ち、自分らしい花を咲かせたいと思います。

学園随想(81)

私が旅をする理由

奥野 公子

私の趣味は旅行

「あなたの趣味は？」と聞かれると、「旅行」と答えることにしている。海外旅行である。最初の頃は訪れた国・地域や期間を正確に記憶していたが、いつからだろうか、覚え切れなくなった。せっかくの機会なので、一覧にまとめてみた(表①)。これまでの渡航経験は計30回(20カ国)。私はなぜ、旅をするのだろうか。その原点を振り返ってみた。

原点を振り返る

金光学園高等学校1年生の夏、カリフォルニア州で1カ月間のホームステイを経験した。ハリウッド映画が好きだった私は、映画さながらの人々の生活スタイルや町の様子を目の当たりにし、生の英語やジェスチャー等に触れ、刺激的で充実した日々

を過ごした。当時の印象的な出来事の多くが、今でも鮮明に頭に残っている。生まれて初めて人種を意識したこと。食生活や体の大きさの違い。離婚率の高さ。統社会を実感したこと。15歳の私は住む場所や育つ環境、話す言葉が違っても、人間の持つ「感じる心」は変わらないことを学んだ。笑顔で人と接することや、相手を思い遣る心を持つことの大切さ。

「Thank you.」の一言の重みや別れの辛さ。これらの教訓は今も常に胸にある。帰国後、外国語や異文化への興味・関心が高まり、大学では言語・コミュニケーション学を専攻した。大学3年生の夏、コネティカット州にある大学へ1カ月間短期留学し、寮生活を送りながら勉学に努めた。この時も3日間だけ、ホームステイを体験した。「アメリカがなぜ大国へと成



長したのか」、アメリカンドリームについてホストファミリーと熱く語り合った日のことは、今でも良き思い出だ。これらの体験が基で、『もっと多くの日本人に、同じ地球に住む人間として、外国人と自分の言葉で理解し合ってほしい』と強く思うようになり、将来、母校で英語の教員になろうと決意した。



Do in Rome as the Romans do
 近年は、英語圏でない国への個人旅行が多い。英語教員として、英語が世界でどこまで通用するのか自ら確かめたいのだ。また、様々な他言語や異文化に触れたいという願望も強い。私は大学時代、中国語とスペイン語も学んだ。英語を話せるようになると、他言語に興味があわく。それぞれの持つ独特な音声や文法。ヨーロッパの言語同士の類似性。言語を学ぶ中で見えてくる生活習慣や文化の違い。実際にその国を訪れ、人々と触れ合いたいという強い思いに駆られる。「郷に入るとは郷に従え」の通り、私は、ただたどしくても、まずはその国の言語で現地の人に話しかけるようにしている。相手の言葉で話しかけると、ほぼ100%笑顔を見せてくれる。私はこの瞬間が大好きだ。良い人間関係を築くには、相手を尊重す



人間の持つ「感じる心」はみな同じ
 教職に就いた2000年夏にはイギリスへ、そして2002年にはカナダへ、海外研修に参加する生徒を引率する役目をいただいた。いずれの場合も、引率者である私もホームステイをさせていただいた。イギリスでは前半・後半と2家庭に、カナダでは1家庭と現地スタッフの方に、お世話になった。家族や仕事、趣味や恋愛の話。教育や文化、政治や経済の話。様々な話題について毎日語り合った。その後も、オーストラリアや韓国にある姉妹校での



旅の記録 (表①)

時期(期間)	国(都市)	目的・種類
1993年 夏 (1カ月間)	アメリカ(カリフォルニア)	海外研修(ホームステイ)
1998年 夏 (1カ月間)	アメリカ(コネティカット)	短期留学(大学の寮生活)
2000年 2月 (8日間)	イタリア	大学卒業旅行(ツアー参加)
2000年 8月 (3週間)	イギリス	海外研修引率(ホームステイ)
2002年 8月 (3週間)	カナダ(カルガリー)	海外研修引率(ホームステイ)
2004年 6月 (6日間)	オーストラリア	高2修学旅行引率
2004年12月 (4日間)	ベトナム(ハノイ)	ツアー参加
2005年 8月 (8日間)	アメリカ(ハワイ)	個人旅行(ALTを訪問)
2006年 8月 (3週間)	オーストラリア(NSW)	姉妹校研修引率(ホームステイ)
2007年 4月 (3日間)	韓国(ソウル)	個人旅行
2007年 6月 (5日間)	オーストラリア	高2修学旅行引率
2007年 8月 (6日間)	アメリカ(ハワイ)	個人旅行(ALTを訪問)
2007年12月 (5日間)	中国(香港・上海)	個人旅行
2008年 8月 (12日間)	イタリア	個人旅行
2009年 8月 (9日間)	チェコ・オーストリア・ハンガリー	個人旅行
2010年 8月 (11日間)	イタリア・フランス(南仏)	個人旅行
2010年12月 (8日間)	アメリカ(ハワイ)	個人旅行(ALTを訪問)
2011年 8月 (5日間)	韓国(チュンチョン)	姉妹校研修引率
2011年12月 (9日間)	フランス(パリ)・UAE(ドバイ)	個人旅行
2012年 3月 (3日間)	韓国(チュンチョン)	姉妹校訪問
2012年 8月 (4日間)	シンガポール・マレーシア	高2修学旅行下見
2012年12月 (7日間)	アメリカ(ハワイ)	個人旅行(ALTを訪問)
2013年 6月 (5日間)	シンガポール・マレーシア	高2修学旅行引率
2013年 8月 (10日間)	スペイン	個人旅行
2013年 8月 (5日間)	韓国(チュンチョン)	姉妹校研修引率
2013年12月 (5日間)	インド	ツアー参加
2014年 8月 (8日間)	トルコ	ツアー参加
2015年 8月 (7日間)	ベルギー・オランダ	ツアー参加
2015年 8月 (5日間)	韓国(チュンチョン)	姉妹校研修引率
2016年 8月 (10日間)	南イタリア	個人旅行

研修に生徒を引率する仕事をいただいた。社会人になってから体験した海外生活は、学生の頃とは多少違うものだった。しかし、どの国を訪れても、現地の人々と本音で語り合うと、人間の持つ「感じる心」は全く同じであることをいつも実感する。

ることが不可欠だ。相手の言語、文化、歴史、宗教などを理解しようと努める姿勢や心が大切なのだ。同じ地球の違う土地に住む人間が、どんな毎日を通しているのか自分の目で見て学ぶために、私は旅を続けた。

中3東京研修旅行

2月15日(水)～18日(土)に、中3東京研修旅行が行われました。「グローバル研修に向けた取り組みの成果を、より実践的な環境の中で深める。」「文化、流行の発信地である東京で文化や芸術に触れる。」「規律ある団体生活を送ることの厳しさを楽しさを知る。」「生活を共にすることで親睦を深める。」を目的とした研修旅行では、様々な体験を通してたくさんのお話を共有することができました。お世話になった全ての方々へ、本当にありがとうございました。この経験と思い出を胸に、高校に進学しても頑張ります！



15日(1日目)の取り組み
午後 TOKYO GLOBAL GATEWAY

(以下TGG)での研修。
16日(2日目)の取り組み

午前 文化芸術研修として「東京国立博物館」「国立科学博物館」「東京都美術館」「日本科学未来館」をそれぞれ見学。
午後 TGGでの研修。

17日(3日目)の取り組み
(以下TTP)での研修。

終日 東京デイズニーシー体験。
18日(4日目)の取り組み
午前 浅草、仲見世通り自主研修。
・東京スカイツリー見学。
午後 劇団四季『ライオンキング』鑑賞。



「思い出に残った東京研修」
1組 山下 煌太
僕がこの東京研修で思い出に残ったことが3つあります。

一つ目は、デイズニーシーに行ったことです。なぜなら、デイズニーシーには家族としかいなかったことがないですが、今回は仲の良い友達といったことで楽しさが違ったからです。チュロスや店の料理、アトラクションに乗れてとても楽しかったです。僕は火山のジェットコースターしか乗れなかったけど、とても充実した一日でした。

二つ目は、ライオンキングです。なぜなら想像していた迫力の何倍もの迫力だったからです。特に迫力がすごかったところは歌を歌うシーンや戦うシーンです。歌を歌うシーンでははもりを入れたり、いろいろな楽器の音が聞こえました。戦うシーンではそれぞれの動物の鳴き声を発しながら演じて、本物くらい似ていて驚きました。

三つ目はTGGです。なぜなら実際の外国人と会話をして大変で難しかったけど、よい経験になったと思ったからです。また、英語を使ったニュースなどが楽し

かったです。
この東京研修で学んだことは、集合時間を守りメリハリをつけることです。集合時間5分前や10分前に行くことで自由時間が増えたりなど良いことがあることがわかったので、これからの学校生活で活用したいと思いました。



「夢のような東京研修」
1組 神田 莉奈

今回の東京研修はとても勉強になりました。1日目と2日目のTGGでは日常生活

ではそんなに使われない英語で外国人と話すことができてよかったです。思ったよりもたくさん話せて、交流できることができてよい経験になりました。未来館では未来に行ってる感じの空間にいる雰囲気でした。動画の編集の仕方やどのようなことになっているのがわかりました。
3日目のデイズニーシーでは、自分たちが決めた班で巡ってとても楽しかったです。でも人が多すぎでアトラクションに並ぶのにも10分越えと、とても長かったです。昼も夜ものパレードもどっちも素敵だったし、とてもかわいかったです。もっといたかったです。

4日目では、東京スカイツリーでは、上のほうまで上がったり、ガラス床に乗ってみたりで、とても景色がきれいでした。家や建物がすごく小さく見えました。劇団四季のライオンキングは今までに見たことのないくらいの迫力があり演技力があり表現力がありました。雷門は思っていたよりも大きくて初めて見ました。生き帰りの新幹線や移動中のバスの中も、とても楽しかったです。毎日の食事も、とても楽しかったです。

岡山に帰ってきた瞬間すぐに現実に戻っ

た感覚がありましたが、頑張りたいと思いました。



「東京研修を終えて」
2組 梁原 伊織

中学3年生は2月15日から2月18日までの東京研修を終えた。今回の研修を終えて印象に残っていることが三つある。

まず一つ目は日常的に英語を使うことの難しさだ。初日と2日目は「Tokyo Global Gateway」という外国人の先生た

ちとたくさん会話をして英語に多く触れることができる場所だった。せっかくな機会だと思える限り先生と話せるように努力した。しかし、自分が思っていた以上に英語を使うことは難しく、正直あまり話すことは出来なかった。今回のTGGを終えて、これまでよりさらに英語学習に真剣に向き合っていかなければと強く感じた。まずは英検準二級を取得したい。

二つ目は、長い時間集団行動をするということについてだ。4日間というこれまでの学習生活にない時間を仲間と共に過ごした東京研修。毎日がたまらないほど楽しかったが、一方で指示を聞いて早く反応したり、周りを見て行動したりすることが必要であった。これからの高校生活ではさらに周りの人と協力し楽しい生活を送りたいと思う。



私はこれまで見たことがなかったが、劇団四季のライオンキングは、動物の姿や心情を上手に表現していてすごく感動した。子役の人も子どもとは思えないほど演技が上手でとても驚かされた。

組をみて、大笑いするとき。黙食なのに思わずしゃべってしまった。ホテルに帰ってから就寝時間まで一時間しかなくて、猛スピードでお風呂・ドライヤー・歯磨き・明日の準備、それらを「やばい、やばい」「間に合わん」などと言いつつ、時間なくともおしゃべりしてしまう時。：どんな時も友達がいってくれて楽しくない時なんてありませんでした。

「一生に一度を仲間と」

2組 森永 夏美

義務教育修了を前に、私たち3年生にとっては、中学校生活初めての宿泊研修となりました。私はこの三泊四日、仲間と共に一生忘れられない思い出ができました。帰ってからも言いたいことがたくさんあったはずなのに、楽しいこと疲れたこと驚いたことなど、いっぱいいい思い出に話しかけていません。

やっぱり一番楽しかったのは、デイズニー！と言いたいところですが、まだかまだかと東京に着くまで新幹線内でワクワクしている時。高いビルがいつぱいでテレビで映る場所の前を通るたびに「しゃいで」「田舎もんじゃん」と言い合う時。美人のガイドさんを見て大喜びをする2



の4日間はマスク越しでもわかるみんなの笑顔をたくさん見ることができ、友達がそばにただでこんなにもたくさん思い出ができるんだなと気づかされました。そんな中3の仲間と学年団の先生に出会えて、一生に一度の研修旅行に行けたことが本当に幸せです。

残り少ない中学校生活も仲間と共に最後まで楽しみたいです。

「書き記せない程の思い出」

3組 金光 奏一

僕はこの東京研修旅行を通して、友達と普段は絶対にはできない、とても貴重で、とても幸せな体験をたくさんすることができた。クラスの仲間との絆をより一層深めることができたと思う。

東京に着いてすぐ、僕はその景色に見入った。とんでもなく建物が高く、人も多くにぎやかだ。あのととき身体全体に走った興奮は、今でもはっきり覚えていて忘れられない。

初日と2日目に訪れたTGGには、今までの僕の英語への価値観を一変させられた。今までの何倍もの早さで英語が上達したように感じた。あんなに楽しく英



語で会話できたのは今までで初めてだった。英語は楽しく面白いと気付かされた。

3日目に訪れたデイズニーシーは、まさに夢のような空間だった。アトラクションにイベント、キャストさんの対応、景色全てに魅了された。そしてまた、園内にいる小さな子供からお年寄りまで、全ての人が満面の笑みを浮かべていたのを見ていた。僕もあの日は、永遠にあの場所から離れたくなかった。

渡る声量、リアルな心情表現、舞台セット、音楽、全てに圧倒された。僕はあまりに感動して、その日家に帰ってすぐDVDで復習してしまった。

もう一つ東京で感動したのが食事だ。4日間、本当に本当に美味しかった。一日三食三百六十五日、永遠に続いて欲しかった。今すぐにでも東京に戻りたい程の幸せだった。

今回の修学旅行は、到底八百字程度で著せるものではない。クラスの絆も目では見えないけれど、より確実に強固になった。このクラスもあと少しと思うと悲しい。だからその残りの時間を大切に噛み締めて過ごしたいと思う。

皆が4日間元気に、無事に大切な時間を過ごせて本当に良かった。

「団体行動の厳しさと楽しさを実感」

3組 清水 愛莉

私は、今回の研修旅行で団体行動の厳しさと楽しさを身にしみて感じました。私たちは入学してすぐにコロナでの休校に見舞われて入校時合宿がなくなり、2年生の「Kibi Autumn Adventure」

は急遽日帰りになってしまったなど、泊の研修すらもしたことがありませんでした。そんな中で初めての泊まりの研修が、段階を踏まずしての3泊4日で正直とても不安でした。しかも、私ほとても仲が良い人以外の人付き合いがあまり得意ではないのに、ホテルで室長という大役を任せられたことも、頑張ろうと思うと同時に不安でいっぱいでした。

けれど、そんな不安たちをよそに、研修自体はホテルも含めてとても楽しく、おだやかにすごすことができました。四六時中家族ではない誰かと一緒にいる経験はとても新鮮で、こんなにわくわくするものなのだ、と思いました。しかし、その一方で厳しさも感じました。5分前行動をしなければならぬことや、時間を逆算して物事に取り組むようにすることなど、多少の融通ならきいてももらえる学校内ではなかなか意識することができないことが、とても大切なことだと感じました。自分が良ければいいという考えではなく、みんなのことを考えて行動する。ああいう公共の場所で、大人数で行動することによって身にしみて分かることがあるんだな、と思いました。



人のことを考え、自分を律しながら行動することによって、みんなが気分良く過ごすことができる。さらに、それは巡り巡って自分も気分良くすることができ。今回実感したことを忘れないように、これからも過ごしていきたいです。

「最高の思い出」

4組 久戸頼りお

私は東京研修で二つのことが特に思い出に残っています。初めてのみんな



が全然違いました。行きは少しの不安と楽しみでいっぱい、帰りは疲れと満足感でいっぱいでした。あまり話したことのない男子とも話し、写真を撮ってくれたりして優しい一面も見せてくれ、印象が変わりました。もう卒業まで一カ月を切っているのに、寂しい気持ちもありますが、高校生になる楽しみもあり、何とも言えないです。悔いの残らないように精一杯楽しみたいと思います。

「東京研修で成長したこと」

4組 渡邊 康稀

中学校生活で最初で最後の東京研修、

みんなで最高の思い出を作り上げることができた。そんな東京研修で、僕は三つ成長できたことがあると思う。一つ目は英語の能力だ。東京研修の1日目と2日目に行った。東京グローバルゲートウェイで、多くの外国人と様々なシチュエーションで、英語で会話することができた。ちゃんと英語で会話できて、とても嬉しかったし、もつと英語を使って喋りたいなと思った。

二つ目は時間の使い方。に敏感になったことだ。時間を逆算する力が身に付いたと思う。例えば、集合時間に間に合うようにするにはどうすればいいのか、いつから行動すればいいのかといった先を読んだ、行動する考えを持てるようになったと思う。また、集合時間等のことに気をつけていることができたから、東京研修を楽しめることができたんだと思う。

三つ目は、団体生活での厳しさを楽しむことができるようになったことだ。今回の東京研修は、中学校生活を通して一番大きな団体生活の行事だったと思う。また、中学生になって初めて友達と一緒に寝泊まりをした。そんな中で、厳しさを知ることでも多くあった。公共の場でのルール



で宿泊だったのでとてもウキウキしていました。ですが、生活を共にするので、難しいこともたくさんありました。それでも私は楽しいという感情の方が大きく、朝、自分たちで起きて準備をするという、日常のなんてことのない過程さえも楽しかったです。夜も1日の出来事を話して笑い合う、そんな普段は何とも思わないことでさえ思い出に強く残っています。

二つ目は東京デイズニースーです。私は二回目でしたが、一回目とは全く違う楽しさがありました。アトラクションでは絶叫を楽しみ、叫びまくりました。お土産選びも、誰にあげようか。と考えることが楽しく、友達と回ったことで、笑いが堪えなかったし、いつもとは違う話をしたことが新鮮でした。東京研修で学んだ英語も、唯一無二の思い出ができたのも、一人ではできないので、この研修に関わってくださった方に感謝でいっぱい。普段の学校生活では、体験できない学びは刺激的で、今まで理解できなかったことも理解できるようになり、少し英語に興味が出てきました。先生も優しく、わかりやすい質問で答えやすかったです。新幹線は、行きと帰りで、心情

や、自己中心的な考えを持つのではなく、全体のことを考えて行動することなどを考えて行かなければならないことがたくさんあったのだが、それ以上に楽しいことがいっぱいあった。団体生活ならではの楽しさを知ることができた。ルールを守って楽しむことの素晴らしさを知ることができた。今回の東京研修では、多くの人と関わり、多くのことを考え、多くのことを学ぶことができた。学んだ事は、これからの中学校生活、そして高校生活につなげていきたい。



The Joy and Importance of Speaking English

L3327 Suzuha Harada

On the school trip to Tokyo, I learned the joy and importance of speaking English.

When I joined the activities at TOKYO GLOBAL GATEWAY, I really enjoyed speaking English in a variety of situations. At first, I was nervous. As I tried each activity in English together with my team members, however, I came to enjoy speaking English more and more. I learned the joy of speaking English at TGG.

I also learned the importance of speaking English at Asakusa. When I visited Asakusa on the last day, I took a lot of pictures there. At that time, I was spoken to by a foreign couple. I spoke simple English with gestures and was able to communicate with them in English. I realized that it's really important for me to learn English. Now I like speaking English. So I will study English very hard!!!

What I Learned on the School Trip to Tokyo

L3414 Kensuke Hamada

I learned two things on this school trip to Tokyo.

The first one is the importance of trying anything. I found that at TOKYO GLOBAL GATEWAY, I did many activities in English, talked to the foreign agents and my team members in English, and tried my best to make myself understood in English. As a result, I realized my ability to use English became better.

The second one is the importance of friendship. When I watched the famous play, "The Lion King," I learned that. In this story, Nala encouraged Simba to return to his country, "Pride Land," and also Timon and Pumba helped Simba defeat Scar. When I finished watching this story, I felt that friends are very important from the bottom of my heart.

The Greatest Memory I'll Never Forget

L3107 Kanata Okamoto

On this school trip to Tokyo, I learned the importance of talking with people in English. Before visiting TOKYO GLOBAL GATEWAY, I was nervous because I thought I had to speak English perfectly when I talk with people. At TGG, however, I was able to communicate with people in my imperfect English, so I could spend fulfilling time there.

Also, I found that people working hard are very cool! When I visited TOKYO TORCH, I heard that university students had to gather a stock of specialties from local areas, then sell them at Another Japan. I've never imagined myself becoming a working member of society. Thanks to this experience, however, now I admire working people. It changed my mind on working.

This school trip to Tokyo will be a lifetime memory to me.



Don't Be Afraid of Making Mistakes

L3221 Yui Kato

On our school trip to Tokyo, I learned how to communicate with gestures when I can't make myself understood in English, and found it important not to be afraid of making mistakes.

On arriving at TOKYO GLOBAL GATEWAY, I was afraid of speaking with others in English for hours. However, TGG teachers kindly and carefully taught me how to do each activity and advised me to just speak English without fear. Then I started talking with my team members more and more in English. As I spoke English, I became more and more confident in my English.

I learned a lot at TGG. I'd like to make use of my experience in the future.



ある日のホームルーム



中学2年4組

中学校では、3学期の大きな行事の一つに生徒会長選挙があります。今年度は中1中2の各クラスから1名ずつが立候補しました。男子3名、女子5名の計8名です。

本格的に選挙に向けての取り組みが始まるのは3学期ですが、2学期末から少



しずつ活動が始まります。12月16日(金)には、現生徒会の役員から生徒会活動の意義ややりがい、仕事内容などについて話をしてもらいました。その話を受けた後、クラスで誰が立候補するかの話し合いが行われました。4組では、現在事務局次長をしている生徒が立候補したいと言ってきたこともあって、早めに立候補者が決定しました。

1月10日(火)の6限と1月13日(金)の6限を使って、選挙運動の応援グッズを作りました。壁新聞、ポスター、テロップ、腕章、たすき、ブラカード、応援用うちわなど、それぞれのグッズごとに制作担当を決め、おしゃべりしながら楽しく作業をしました。2時間で作業が終わらなかつたグループは、放課後に残って制作しました。

1月14日(土)からは選挙運動が開始されます。朝は8時から8時20分まで、



放課後は終礼後から16時半まで、中学棟玄関前で各候補者たちが立ち並んで声を出します。寒い中ですが、クラスメイトたちとわいわい言いながら、投票日の27日まで楽しく選挙運動を行いました。

1月18日(水)の5・6限にZOOMによる立会演説会が行われました。候補

者は自分の思いを熱弁し、応援演説者は候補者の人柄や長所などを伝えました。この演説会を受けた後、クロムブックを使って、各候補者への質問を書き込みました。

1月25日(水)6限は公開質問会です。前回の立会演説会で生徒から寄せられた

質問に、各候補者が答えるという会です。この質問会のやり取りで、各候補者の熱意や公約内容などがより具体的に皆に伝わっていきます。

1月27日(金)の6限に、いよいよ投票が行われます。その日の朝は、応援責任者の呼びかけで、クラスのほとんどの生徒が中学棟前に立ち、最後の選挙運動を行いました。朝のHRでは、クラスの皆にお礼を言いたいと、候補者から申し出がありました。「大勢の人に応援してもらえて嬉しかったです。ありがとうございます。候補者からの言葉に、大きな拍手が鳴り響きました。6限は、事前に録画した各候補者の最後のメッセージを聞いてから、一人3票を投票します。そして、放課後には中学社会科教室で、選挙管理委員や事務局員がこもって、開票作業を行います。その結果、中2の3名が会長、副会長に当選しました。4組からの候補者も副会長になることができました。

1月30日(月)の放課後には、やつなみ広場で認証式が行われました。今年度の生徒会三役から来年度の生徒会三役にバトンが渡され、新生徒会長の言葉からは大いなる意気込みが感じられました。



国際交流 復活してます！



12月現在、金光学園では5人の留學生がやって来ています。コロナ禍でしばらくストップしていた国際交流もだんだんと復活してきました。

まずは5人の留學生たちに中学新聞部員がインタビューした様子を紹介します。

5人は高校1年生に在籍しています。

ドイツからやって来たヤンくん、スイスからやって来たジョエルくん、ベトナムからやって来たチーさん。さらに本校の姉妹校であるオーストラリアのラットフォードカレッジからやってきたオリビアさんとセラさん。5人とも英語を交えながらの日本語で、快くインタビューに応じてくれました。

【日本に興味を持った理由は何ですか。】

ジョエル 日本語の音が面白いと思っただけです。それに日本の景色もとてもきれいだなと思っていました。

ヤン 日本は食べ物が美味しいと思った

からです。

オリビア 私も同じです。食べ物が美味しいと思っていました。

セラ 私は日本の文化が面白いと思っていました。特に「お祭り」に興味があります。

チー 私は両親の影響もありました。両親が日本語を習っていたので、私も日本に留学しようと思ったんです。それに日本のアニメや食べ物にも興味を持っていました。

【皆さんが考える日本の魅力を教えてください。】

ヤン 日本人はとても優しいです。そして、僕は毎朝自転車通学に通うのですが、いつも田んぼを見て「美しいな」と感じています。田んぼがきれいですよ。

オリビア 全体的に色々なものがあります。

セラ あと、お祭りがあるのがいいですね。私は読書やアニメが好きなので、日本の図書館の雰囲気が好きです。そして「お祭り」ですね。オーストラリアには「お祭り」というものがありません。日本のお祭りが見てみたいですね。チー 魅力というと、日本の景色ですね。

桜とか紅葉がきれいです。四季折々の景色がとても美しいです。ベトナムでは雪が降らないので、雪景色も魅力ですね。ジョエル 日本の料理ですね。まず美味しい。それにスイスの料理と似ているものもあるんです。同じ料理でも、表現の仕方が日本とスイスで異なるのも面白いですね。

【日本に来て驚いたことを教えてください。】
ヤン 自動販売機が多い！（新聞部員一同、「へえ〜〜」と驚き）

それに日本人が優しいこと。だからとても幸せです。僕の母国での学校は公立校なので、私立である金光学園と比べると、違うところもありました。

オリビア 学校の建物の高さが高いことですね。オーストラリアは平面に広がって高さはあまりないので。

ジョエル 先生と学生の間接かな。日本の先生はとても優しくて明るいんです。

セラ 日曜日にイオンモールに行ったんです。店がとってもきれいでした。特にディスプレイの仕方に驚きました。品物をきちんと整理整頓して並べていたのが、母国と違うなあと感じました。



【日本に来てやりたかったことは何ですか。】
ジョエル 温泉に行きたいです！今までに稲刈りや将棋、茶道など、色々なことに挑戦してきました。今は、次にどんなことに挑戦していきたいか考えています。ヤン 寿司を50皿食べたい！（一同爆笑）僕も、今までにジョエルと一緒に色々挑戦してきました。着物も着たし、ラーメンも食べましたね。

オリビア オーストラリアでは「部活動」が少ないんです。華道部とか剣道部もない。チーさんは剣道をしていると聞きました。学園には色々な部活動があるから、部活をやっ

てみたいですね。

セラ 日本の祭りを体験したいですね。秋葉原やスタジオリブリにも行ってみたいなあ。

チー ベトナムは暑いので、スキーをしたことがないんです。北海道に行つてスキーをしてみたいですね。あと、デイズニースーにも行ってみたいです。

ここで、中3新聞部員たちは、2月に東京研修でデイズニースーに行くことを伝えると、「いいなあ〜」の大合唱でした。

【自国に持って帰りたい日本の文化がありますか？】

オリビア 「持って帰りたい」ではなくて、日本とシェアしたい文化なのですが…。オーストラリアのアボリジニーの伝統文化を日本の人にも知ってもらいたいです。（ここで画像を見せてもらいました）

セラ 非常に細かいドットで描かれた鮮やかな絵や、とても長い楽器を紹介したいです。この楽器はとても低い音が出るんですよ。

インタビューの後で「長い楽器」について調べてみました。「ディジェリドゥ」と呼ばれるこの楽器は、もともとは人の手で作られた

ものではなく、シロアリに食われてできた天然の楽器なんだそうです。

チー 楽器の琴とか、温泉をシェアしたい！ あとは電車ですね！ ベトナムの交通手段はバイクが主です。電車もあるんですが、まだ不便なことが多くて、学校に行くのにも使えないんです。日本の電車はすごく便利ですよ。

ジョエル そうですね。(適切な日本語が思い浮かばず悩みながら) 学校のルールですね。例えば授業の開始に行う「起立、手を付け、礼」とか…。

「日本に来る前と来た後の印象の変化を教えてください。」

ヤン 来日する前、日本人は控えめで奥ゆかしいという印象でした。そのイメージは来日してからも変わりませんでした。でも日本で過ごす中で、日本人の礼儀正しさや優しさを知りました。だから日本人の控えめな態度、奥ゆかしさも全て優しさからきているんだろうな、と思いました。

それに学校の印象も変わりました。来日する前は厳しいと思っていましたが、

最初は上手くインタビューできるかな？と不安もありましたが、高1の藤井先生も手伝ってくれたり、何より5人の高い日本語力で終わってみれば、あつという間のインタビューでした。皆さん、これからも金光学園を、そして日本を楽しんでくださいね！

オリビア ワン

(1月7日始業式での挨拶より)

みなさん、おはようございます！ 楽しい冬休みを過ごせたことを願っています。今週はセラさんと私の日本で最後の週です。土曜日に出発するので、これから最後のあいさつをしたいです。この4週間はあつというまじでしたが、毎日楽しくてびっくりしたことはいっぱいでした。はじめてのことでもたくさんして、おいしい日本料理も食べました。でも、一番楽しかったのは、みなさんにお会いして、金光学園の学生のような生活を送



実際は先生も生徒もとても親切で優しくかったです。

オリビア 私は一度日本に来たことがあったんです。そのときから印象に違いはありませでした。

セラ 日本人は受験があるから、生徒はバリバリ勉強しているんだろうな、と思っていました。実際目にしてみると、もちろん皆、一生懸命勉強しているんですが、宿題や勉強も楽しみながらやっていますと

ることでした。みなさんやさしくしてくださってありがとうございます。先生、校長先生、そして私のホストファミリーにかんしゃします。この経験をおもいだして、金光学園も恋しくなります。もし、機会があれば、オーストラリアに行ってみてください。もうすぐラッドフォードに来る学生たち、わたしにあいさつしてください。ありがとうございます。

セラ ザング

(1月7日始業式での挨拶より)

校長先生、先生方、生徒のみなさんこんにちは。金光学園で私を受け入れてくださってありがとうございます。みなさんはとてもやさしかったです、ステキな学校生活でした。日本にいる間に、私の日本語が上手になったと思います。

5週間で、たくさん友達ができました。そして、日本の文化と生活を体験できて、ありがとうございます。この経験を忘れないし、3月にラッドフォードに来る留学生に会うことを楽しみにしています！

校長先生をはじめ、みなさんにあらた

感じました。日本人はバランスが取れているな〜と思いましたね。

チー 私も前に日本に来たことがありました。そういえば、ベトナム人の友達に日本の女子高生の写真を見せたとき、びっくりしていました。「スカートが意外と長い！ アニメだと短いのに…」って。

ここでもまた一同爆笑。最近の女子高生のスカートは全体的にも長めですよ。

名残惜しいですが、楽しいインタビューもそろそろ終盤。日本に興味を持った理由で、ほとんどの人が挙げていた「食べ物、日本の美味しさ」から、最後に「一番好きな日本食は？」と、「一番好きな日本語は？」という質問をしました。

ジョエル うどんです！ 「かわいい」が好き。

ヤン (もちろん) 寿司！ 「けしき」が好きたな。

オリビア 私もうどんです。「あざやか」って言葉が好きです。

セラ お好み焼き！ 「もみじ」が好きですね。

チー 卵料理！ なかでも卵かけご飯が好きですね。当然すぎ焼きにも卵をつけ

めてかんしゃします。ありがとうございます。



ファムランチ

金光学園に来てから6か月間、毎日楽しく過ごしていました。

初めて異国で暮らして、最初は少し緊張しました。ですが、想像と違って、今までお目にかかった日本人の皆さんは私にも優しく接してくれました。

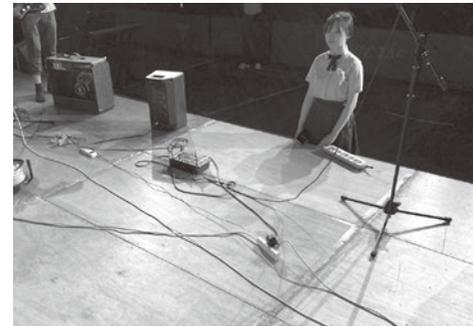


家族や友達から離れて寂しさを感じましたが、日本の生活に慣れてきてからは、

友達も増えました。学校に来て最初の2週間は、一人で帰ることが多かったのですが、今では友達と一緒に帰っています。ベトナムでは、バイクで通学しておりますので、友達と一緒に帰ることはありません。毎日友達とおしゃべりしながら歩いたり、コンビニで美味しいものを食べたりすることは、初めての経験です。

部活は軽音楽部に入っています。

軽音楽部は大好きな音楽を自由に楽しめる所です。ほつま祭のステージでのパ



フォーマンズやライブでの緊張感や楽しさは今でも忘れられません。軽音楽部で過ごした時間は私にとって最高の時間です。

日本に来て、初めて体験したことは山ほどあります。ほつま祭、体育祭や球技大会など、ベトナムの高校生活と比べて全く違います。

ベトナムの高校の文化祭では舞台だけで、金光学園のような展示会はありません。体育祭はありますが日本のようなレーや障害物競走はありません。

半年がたった今では、たくさんのお友達ができました。皆さんのおかげで日本のことを理解できるようになりました。

よく周りの人から、将来の計画について聞かれます。現時点ではまだぼんやりしていますが、皆さんと話し合うたびに、徐々に自分の目標が見えてきました。

経験を通して、少しずつ成長した気がします。正しい日本語の使い方から電車のマナーまで、周りの人から色々なことを教わりました。六か月前の自分を振り返ると、全く違う自分に気づきます。

金光学園での毎日は忘れられない思い出です。架け橋プロジェクトの

他にもこんな国際交流

7月15日(金)には、JICA研修員の方々、11か国16名の皆様が金光学園を訪問されました。中3、高1、高2の生徒たち、そして国際交流クラブのメンバーたちが交流しました。



留学生として日本に来て本当に良かったと思います。



生徒会活動

《**中学生徒会**》 次年度の生徒会を担う生徒会長選挙が1月7日に公示され、中1・2の8クラスから8名(男子3名、女子5名)が立候補した。18日の立会演説会では、政策や公約と共に候補者の熱い思いが訴えられた。25日の公開質問会では多くの質問が出され、候補者の考えを更に理解できる良い機会となった。27日の投票の結果、会長に2年の日笠 煌太くん、副会長に2年の中村奈那美さん、2年の磯崎 唯愛さんが当選した。新事務局員募集のための説明会を行った。しばらくは現事務局員と一緒に活動し、3月10日の春季球技大会や3月16日に行われる中学ゆずり葉のなどの準備の中で、段取りや運営の仕方を身に付けていく。最終的には新年度になってから新事務局員を決定する。

《**高校生徒会**》 2月3日(金)、第二回生徒会総会が行われた。今年度の各種専門委員会、学年代表者会議、執行部の年間総括について審議され、すべて原案通りに承認された。運営は円滑に進んだ。オン

ライン開催ではあったが、発言した各種専門委員長、学年代表者会議議長、執行部らはいずれも堂々とした態度で発表を行い、質問や意見に対して誠実に答えた。《**天文部**》 2/17(金)、天文部OBの中川修一氏が来校し、研究発表交流会を行った。中川氏は大学の研究内容を紹介し、高2井上智誠君はAIを用いた流星検出の研究を発表して、現役部員との交流を深めた。

《**書道部**》 1月には、「成田山全国競書大会」「ふれあい書道展」「西山拙斎書道展」の3つのコンクールに各部員が挑戦した。

《**茶道部**》 1月7日(土)に倉敷市玉島市民交流センターで行われた新春イベントで、新春茶会を行った。用意していたチケット100席は完売した。生徒はお点前や亭主、お運び、水屋での仕事などそれぞれが自分の役割をしっかりと果たした。特に着物でのお点前やお運びは大変だったが、日頃の練習の成果を発揮し、お客様にも喜んでいただけた。

《**音楽部吹奏楽団**》 12月27日(火)くらしき作陽大学で開催された第54回岡山県アンサンブルコンテストへ中学生7名が

管楽7重奏で参加、「スラブ舞曲集より」を演奏し銀賞を受賞した。1月21日(土)に里庄総合文化ホールフロイデで開催されたジョイフルコンサートに参加し、「鎌倉殿の13人」「さくららのうた」「ジャンボリミッキー」を演奏した。

《**音楽部コーラス**》 12月18日(日)くらしき健康福祉プラザで開催されたクリスマスコンサート(主催・阿智の風)に出演した。久しぶりのステージだったが、子供たちの生き生きとした歌声で会場を盛り上げることができた。

2月4日(土)校内でOB OGとの合同練習を行い、大阪音楽大学学長の本山秀樹氏に指導していただいた。緊張感のあるなか、学びのある充実した時間となった。

《**美術部**》 岡山県中学校総合文化祭に8名が絵画を出品した。作品は12月6日(火)～11日(日)に天神山文化プラザに展示された。

《**高美術部**》 岡山県高等学校美術展に3名が絵画を出品した。搬出・展示作業には4名が参加し、他校の生徒とも交流しながら、たくさんの優れた作品を鑑賞することで大いに刺激を受けた。作品は1

月31日(火)～5日(日)に天神山文化プラザに展示された。

《**中・高新聞部**》 12月に、3月発行の、ほつま新聞210号の記事作成として、5名の留学生とのインタビューを行った。記事の校正も現在行っている。

《**軽音楽部**》 12月20日に120大講義室で発表会を行い、80名の観客の前でライブを行うことができた。現在は来年度のほつま祭に向けて練習を頑張っている。

《**囲碁将棋部**》 12月17日(土)～18日(日)に岡山市で行われた、第21回中国地区高等学校将棋大会男子個人戦に、高2 仕田原 良が出場し、中国5県32名中第10位となった。

《**中男子ソフトテニス部**》 12月10日に笠岡総合スポーツ公園で行われた第1回あぐり中学生ソフトテニス大会では、6ペアが出場し、山下・藤井、大谷・森原ペアが3回戦敗退、横溝・定金ペアが準優勝を果たした。2月11日にびんご運動公園で行われたびんごミズノカップにA・Bチームが出場し、どちらも予選リーグ敗退であった。日頃は、春に向けて練習を行っている。

《**中女子ソフトテニス部**》 中2が7名

中1が1名、合わせて8名で、寒さに負けず活動中。

《**高男子ソフトテニス部**》 1月5日に、玉島の森体育館で行われた強化研修会に、桑田・北口・矢島が参加し、技術を磨いた。1月21日に倉敷スポーツ公園マスカットテニスコートで行われたプロシード団体戦に出場し、予選リーグ敗退であった。2月4日に備前テニスセンターで行われた岡山県技術等級ソフトテニス大会に、3ペア出場し、桑田・竹内ペアが予選リーグ1勝、矢島と岡山朝日の生徒のペアが予選リーグを突破し、決勝トーナメント初戦敗退であった。日頃は、春に向けて練習を行っている。

《**高女子ソフトテニス部**》 2月4日に水島緑地福田公園テニスコートで行われた、岡山県技術等級ソフトテニス大会の中級の部に安藤・谷野ペアが、初級の部に金田・河田ペア出場し、予選リーグで敗退。

《**中卓球部**》 12月17日に山陽新聞社杯卓球大会に参加した。男子シングルスで安藤(L2)がベスト32に入った。女子シングルスで藤原(L2)がベスト16に入っ

12月27日に全国中学選抜岡山県予選会に参加した。男子団体予選リーグで岡山大安寺に3-1、山南学園に3-2で勝ち、決勝トーナメントで真備東に3-2で勝ち、決勝1次リーグで芳田に0-3、総社東に0-3、吉備に0-3で敗れたがベスト8に入った。

1月5、6日に丸亀オープン中学生卓球大会に参加した。男子団体戦では準決勝で高瀬に2-3で敗れたがベスト4に入った。男子個人では山田(L2)がベスト4、安藤と小谷(L2)がベスト8に入った。

1月15日に岡山県加盟団体戦に参加した。男子団体予選リーグで東山に3-1、倉敷天城に0-3、芳泉に3-2で予選2位となり、順位別トーナメント1回戦で西大寺に2-3で敗れた。

1月29日に井原卓球協会後期個人戦に参加した。中学男子1部で安藤と山田がベスト8に入った。中学男子2部で松岡(L1)が準優勝した。中学女子1部で藤原がベスト4に入った。

《**高卓球部**》 11月22日に県高等学校新人卓球大会(シングルス)に出場した。U2光田舜亮がベスト16に入賞、U2藤井・

U1齋藤がベスト32に進出した。

11月23日に岡山県加盟団体戦に出場した。Aチーム(U2山本・藤井・光田舜・光田隆・U1白神)がBクラスで第3位、Bチーム(U1金子・岸本・齋藤・島原・藤井)がCクラスで第3位に入賞した。

12月16日から18日に鳥根県出雲市の浜山公園体育館(カミアリーナ)で行われた中国高等学校選抜卓球大会に出場した。予選リーグで鳥根県代表の太田高校に3―2で勝ち、もう1チームが棄権だったため、8チームによる決勝リーグに進出した。各県1位や2位の強豪校相手に果敢に戦い、リーグ最終戦では山口県代表の下関工業に3―2で勝ち、全体の7位に入賞した。

12月26日に全国高等学校選抜卓球大会(2部)岡山県予選会に出場した。男子シングルスでU1白神巧志朗が優勝し、3月に愛知県で行われる全国選抜大会への出場権を獲得した。

12月27日に県高等学校新人卓球大会(ダブルス)に出場した。U2光田隆・山本組がベスト8に入賞、U2藤井・U1白神組もベスト16に入った。

《中サッカー部》 12月25日に御津中学校

で行われた百間川サッカー大会で、対落合中学校(1―2)、対高島・就実中学校(2―3)、対御津中学校(4―2)という結果であった。2月4日に行われた練習試合で、対アルコバレーノ(1―1)、対アルコバレーノ(0―2)、対鴨方中学校(0―2)という結果であった。

《高サッカー部》 岡山県高校サッカー新人大会備中地区予選会が12月17日・18日に行われ、対おかやま山陽(0―8)、対総社(0―2)という結果であった。

12月25日・28日に福山ウィントアユースフェスティバルに参加し、対大門(3―2)、対翔洋(1―4)、対大門B(1―5)、対愛工大名電B(1―2)、清水ヶ丘(1―4)という結果であった。1月2日には3年ぶりにOB会を開催した。約70名の参加があった。久々に顔を合わせた先輩、後輩、仲間たちと共に初蹴りをし、楽しい時間を過ごすことができた。2月11日には、社会人チームと練習試合を行った。

《高野球部》 11月12日より行われた令和4年度岡山県高等学校野球1年生大会は、2回戦より出場となりましたが、関西高校に2対3で敗れました。

《中女子バスケットボール部》 1月22日・

29日に玉島北中学校で行われた第5回岡山県リーグU14、地域リーグが行われた。1日目、4チームリーグ戦で行われ、金光学園29―29連島中、金光学園25―37笠岡東中、金光学園28―49倉敷南中で得失点差でリーグ3位となった。2日目は、3・4位トーナメントで行われ、金光学園38―29里庄中で勝利し、決勝トーナメント金光学園34―50玉島北中に敗れた。2月11日・12日に玉島北中学校で行われた玉島・浅口・笠岡・船穂地区大会が行われた。1日目、3チームリーグ戦で行われ、金光学園25―25鴨方中、金光学園40―12船穂中、ゴールアベレージでリーグ3位となり、3位トーナメントへ。2日目、金光学園50―12玉島西中、決勝では、金光学園29―29真備中、結果3位リーグ、1位となった。

《高男子バスケットボール部》 1月14日(土)から3週にわたり、第75回岡山県高等学校バスケットボール新人優勝大会が行われた。初戦はシード、2回戦では東岡山工業高校と対戦し102―75で勝利し、ブロック決勝に進んだ。ブロック決勝では関西高校に63―84で敗れ、敗者復

例年1月2日に行われるOB会総会ですが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて開催を見送りました。

《柔道部》 12月25日に岡山武道館で岡山県中学校柔道強化練習会が行われ、中2中井康介が参加した。

12月25日から27日に玉野スポーツセンターで近県柔道強化練成会が行われた。感染症の影響から3年間で中止となっていた練成会が久しぶりに開催され、3日間多くの試合経験を積むことができた。

1月3日に初稽古を実施し、多くのOBも参加していただき、盛大に行うことができた。

1月21、22日に倉敷武道館で第45回全国高等学校柔道選手権大会岡山大会が行われた。男子団体戦は1回戦で岡山白陵高校に敗れた。男子個人戦は3名が出場し、それぞれが善戦した。

《中・高剣道部》 1月2日(月)に剣道場にて稽古始めとOB・OG会を行い、県内(近隣の役員の先輩)の先輩方と快い汗を流した。同時に「厳寒に鍛える」という目標で寒稽古を行い、14日(土)に納会を迎えた。高校1年山下劉が皆勤であった。

活トーナメントへ回った。敗者復活トーナメント1回戦では、作陽高校と対戦し65―63で勝利し、敗者復活トーナメント決勝では玉野光南高校と対戦し61―68で敗れ、今大会を第6位で終えた。

《高女子バスケットボール部》 第75回新人戦備中予選会で、一回戦倉敷古城池高校に69対45で勝ち、ブロック決勝で総社南高校に47対53で負けた。続く5位決定トーナメントで、総社高校に69対55、倉敷南高校に64対57で勝ち備中地区5位となった。新人戦県大会で、一回戦備前緑陽高校に64対35で勝ち、二回戦就実高校に43対130で負けた。

《高男子バレーボール部》 11月岡山県高等学校バレーボール選手権大会 準優勝

3回戦 金光学園2―0吉備高原
準決勝 金光学園2―0倉敷工業
準決勝 金光学園2―0岡山龍谷
決勝 金光学園1―3岡山東商業
岡山県高等学校バレーボール新人大会 備中地区予選会 優勝
グループ戦

金光学園2―0玉島
金光学園2―0水島工業

《中男子バスケットボール部》 1月9日、2月5日に県リーグU14が総社東中学校で行われた。総社東中、香和中、邑久中、KIZUNAと対戦し、1勝4敗という結果でリーグ戦を終えた。悔しい結果になったが夏の大会に向けて良い経験ができた。

決勝トーナメント

準決勝 金光学園2-0 高梁
決勝 金光学園2-0 倉敷商業
全国私立高等学校バレーボール選手権大会 中国ブロック予選 優勝

1月 岡山県高等学校バレーボール新人大会 優勝(3年ぶり5回目)
2月 中国高等学校バレーボール新人大会 準優勝

2月 2回戦 金光学園2-0 倉敷天城
準々決勝 金光学園2-0 東岡山工業
準決勝 金光学園2-0 玉野光南
決勝 金光学園2-0 関西

2月 中国高等学校バレーボール新人大会 準優勝
2回戦 金光学園2-0 広島城北
準々決勝 金光学園2-0 瀬戸内
準決勝 金光学園2-0 宇部商業
決勝 金光学園0-2 高川学園

全国大会を目標に頑張ります。

《ダンス部》 12月に中学生全員で金光キッズフェスティバルに出演し、KPOPダンスなど披露した。新年度に向けて各学年課題をみつけ、練習に励んでいる。

学園だより

中学入学試験(教科型)

1月4日、165名が志願していた中学入試(教科型)が行われた。合格発表は7日に行われ、専願合格者は1月14日までに、併願合格者は2月8日までに手続きを完了した。2月11日には、入学までの指導や制服の採寸のための招集があった。

始業式

1月7日、3学期始業式がオンライン形式で行われた。校長式辞・高3生徒(木下幸喜)の決意表明・留学生の挨拶・生活課よりの諸注意があった。

街頭交通指導

毎月1日は生活課の教員が、またその他にも定期的に学年団の教員が通学路に立ち、交通安全や通学マナーについての指導を行った。

高校県外入学試験

1月9日、県外の中学生を対象とした一般入試(専願・併願)が行われ、29名の中学生が志願した。

12日に各中学校宛に選考の結果が通知され、専願合格者は18日までに手続きを終え、2月11日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。

高1性教育 1月12日、上村茂仁先生を講師にお招き実施した。

大学入学共通テスト

1月14・15日に実施された大学入学共通テストには、高3生徒165名が出願し、倉敷芸術科学大学、中国学園大学、くらしき作陽大学の3会場受験した。



学校保健委員会 1月20日に予定されていたが新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止された。
中学生徒会長選挙 1月27日に行われ

た来年度の中学会長選挙の結果、会長には2年の日笠煌太くんが、副会長には2年の中村奈那美さんと2年の磯崎唯愛さんが選ばれた。

進路委員会

1月21日、高3では大学入学共通テストの自己採点の結果を基に、2次試験に向けての出願を検討した。その後、個人面談を実施し生徒は出願した。

進路学習

1月20日、中3は対面で、中1、中2はオンラインで高校3年生から高校入学後の心構えや受験に関する話を聴き、それを元に進路を考える機会を持った。また、3月19日、高2は高3の入試体験発表を聞いた。

高校入学試験

1月26日に推薦入試(専願)と3教科入試(専願・併願)が同時に行われ、それぞれに18名、81名の中学生が志願した。30日に各中学校宛に選考の結果が通知され、専願合格者は2月7日までに手続きを終え、11日の招集日に入学までの諸連絡を聞いた。また、2月4日に追試を実施した。

読書会

1月27日に高1が、2月3日に中1が読書会を実施した。

中3東京研修

2月15日から18日まで

オーストラリアグローバル研修の代替行事として東京研修を実施した。これに先立ち2月8日劇団四季の越智幸紀氏(高38回卒)をお招きし事前学習を行った。

高2芸術選択者発表会

2月18日、音楽選択者は練習の成果を演奏会で発表した。また、2月上旬に美術選択者が、下旬に書道選択者がそれぞれ作品を校内に展示し発表した。

中1イングリッシュ・リサイクル

2月24日、小体育館で実施した。

中2学年集会

2月25日、小体育館で実施した。

卒業式

3月1日、第75回高校卒業式が1部は厳かに、2部は和やかに行われ、185名の生徒が学園を巣立った。

◇教主金光様のおこぼ

われわれは、生活のすべての上で、あらゆる人やもののお世話になっています。お世話になるすべてにお礼を言う、感謝の心を土台にして、ここから先、それぞれの願いに沿っておかけを頂かれますように、お祈りいたします。本日は、おめでとうございます。



お悔やみ 佐藤洋平先生のご尊父が12月14日に、浅野英江先生の御祖母様が2月7日に、旧職員 藤原邦正先生が2月11日に、荒川俣固先生が2月12日にご逝去。謹んでお悔やみを申し上げます。

教室の窓から

今年度、高校3年生が綴った推薦入試の志望理由書を数多く添削した。その中で複数の生徒が「子どもの貧困」を取り上げていたことが強く印象に残っている。大学で専攻する学問領域に関連させつつ、将来はその解決に貢献したいというのである。加えて、面接指導においても「子ども食堂」の存在に言及する生徒が少なからずいた。

厚生労働省は、等価可処分所得の中央値のさらに半分の額を指す「貧困線」を下回る世帯を「相対的貧困世帯」と定義している。そして現在の日本では、17歳以下の子ども約7人に1人が貧困状態にあり、国の平均的所得の半分以下しか所得のない家庭で養育されているのである。

「相対的貧困」状態に置かれた子どもの中には、夏休み明けに体重が激減する人がいるという。給食がなくなるために、十分な栄養を摂取できないのである。その他にも、自己肯定感の低さ、大学進学率の低さなど、数々の悪影響が生じている。何より、貧困は次の世代へと連鎖していく。それらはすべて、当人や保護者のせいではない。本邦首相が年頭の記者会見で掲げた「異次元

の少子化対策」が、言葉と実態の乖離によって様々な波紋を呼んだことは記憶に新しい。この国でもう何十年も少子高齢化が問題視されながら、一向に改善の兆しさえ見えないのも、さもあらざると納得せざるを得ない苦練であった。一方で、泉房穂市長が主導する子育て支援を要成した兵庫県明石市が巷間の話題に上るようになってもいる。少子高齢化も「子どもの貧困」も、詰まるところ、同じ原因に根ざしているのだろう。

日々、教室で授業に集中し、受験勉強に邁進しながら、時に偏差値や合否に翻弄されているようにも見える高校3年生。そんな彼女らが、自分たちを取り巻く社会の問題を見据え、解消のために力を尽くしたいと考えていることに、決して小さくはない衝撃を受けた。

教室の中だけを見て満足してはいけない。生徒の前に立つ教員として、何より一市民として、教室の窓の外に広がる世界にこそ目を向けなければならぬ。大切な教を残して巣立っていった生徒たちに心から感謝している。この国に生きるすべての子どもと大人が豊かに生きていける、そんな日本になるように、微力ながら寄与したい。

編集後記

やつなみ3月号には毎年卒業短歌が掲載される。担任の先生は全員卒業短歌提出に向け涙ぐましいほどに努力される。生徒の立場にたつと受験勉強に追われる日々、なかなか気持ちの整理がつかない時期に辛いものがあるのではと思うが、それ以上に何気なく思っていることを表現し伝えることの難しさからだと思っている。歴代の卒業短歌から「家族への感謝」を込めた歌を選んでみました。■日の出前毎日送ってくれた母親に「ありがとう」の卒業証書(52回) ■いつてらっしゃいと送り出す祖母の姿いつまでも元気でいてよとしみじみ思う(53回) ■玄関で我の背を押す母の手が合図となりて今日も始まる(54回) ■我喚く今更ながら思うこと終わるは皆き母の弁当(55回) ■「間に合わん」慌てていると母の声「食べんと許さん」愛情声(56回) ■あと五分チャイムの音を待つ私頭にあるのは母の弁当(57回) ■ありがとうその一言が言えなくていつの間にか迎えたこの日(59回) ■泥まみれ目もあてられぬ練習着洗濯する母毎日感謝(60回) 母親への感謝の歌がほとんどの中で父親への感謝の歌を見つけた。■雨模様父さん見つめるその心情「連れて行って」の心の合図(58回) 卒業生に幸あれ「やつなみ保護者会」に栄冠あれ

令和5年3月9日印刷
3月14日発行

編集者

金光学園やつなみ保護者会
やつなみ編集部

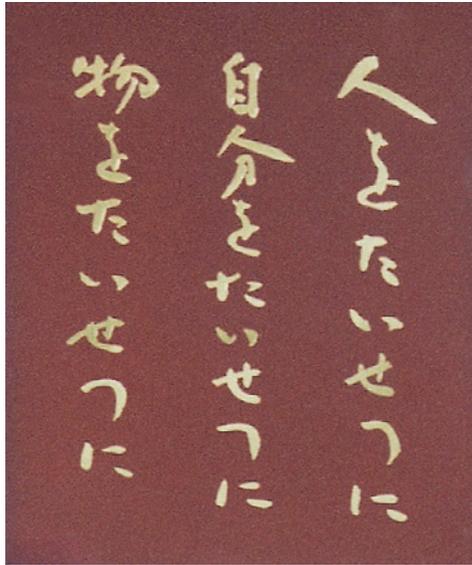
印刷所

倉敷市船穂町船穂二〇九五―一
玉島活版所

発行所

浅口市金光町占見新田一三五〇
金光学園内
金光学園やつなみ保護者会





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。



homepage



facebook



Instagram

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail info@konkougakuen.net